

4. 環境保全行動の実態と今後の意向(問4)

第三次環境基本計画では、10の重点分野ごとに展開プログラムが示され、関係主体の取り組むべきことを具体的に示されている。

本章では、同計画で取り上げられている国民の取り組むべきことに沿って設問項目を整理し、その実態と今後の意向を分析する。

4-1 環境保全行動全般

まず、「国民の役割」と設問項目として取り上げた環境保全行動種類との対応を示す。

図表 4-1 環境保全行動の実態

重点分野	国民の役割	設問項目
1 地球温暖化問題に対する取組	<p>大量消費・大量廃棄型の生活様式の変革(住宅の断熱化、省エネルギー機器や燃費性能の優れた自動車への買換え、公共交通機関や自転車の利用促進、地域材の積極的利用等)</p> <p>リサイクル運動、森林づくり・都市緑化などの緑化運動等の温暖化対策活動への積極的な参加</p>	<p>(1) 日常生活において節電に努めている</p> <p>(2) 冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている</p> <p>(3) 家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している</p> <p>(4) 外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している</p> <p>(5) 地域で取れる食材や建材などを利用している</p> <p>(12) 運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない</p>
2 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組	<p>消費者・地域住民として、廃棄物等の排出を通じて環境への負荷を与える一方で、循環型社会づくりの担い手でもあるとの認識を踏まえた行動の実践</p>	<p>(6) 日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている</p> <p>(7) 物は修理して長く使うようにしている</p> <p>(8) ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている</p> <p>(9) 古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている</p> <p>(10) 不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている</p> <p>(11) 買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている</p>
3 都市における良好な大気環境の確保に関する取組	<p>日々の暮らしが環境に大きな負荷を与えていることを認識し、エコハウス、低公害車等の環境負荷の小さい製品・サービスの利用を図るとともに、環境への負荷の小さい交通手段の利用、エコドライブの実施、冷暖房温度の適正化、こまめな節電・節水、庭先やベランダの緑化、再生水等による打ち水など、自ら環境負荷を軽減する視点からの積極的な取組の実践</p> <p>コミュニティとして環境負荷の低減を進めるための取組の実践</p> <p>民間団体は、国民、事業者、地方公共団体、国の取組が進むよう提言、情報発信を行うとともに、地域のコミュニティ活動に向けた取組に対する積極的な支援</p>	<p>「1 地球温暖化問題に対する取組」と同じ</p>
4 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組	<p>流域の水循環の現状について、その問題点を自ら認識して、それぞれの立場による意見の相違を克服し、目標となる望ましい水循環の姿を共有しようとする取組への主体的関与</p> <p>環境保全上健全な水循環の構築に向けた計画の策定等の取組に参加し、節水意識、汚濁負荷の排出の抑制、水の循環利用等に対する意識を向上させ、具体的な行動の実践</p>	<p>(13) 日常生活において節水に努めている</p> <p>(14) 油や食べかすなどを排水口から流さない</p>

重点分野	国民の役割	設問項目
5 化学物質の環境リスクの低減に向けた取組	化学物質の環境リスクに関する的確な情報の入手と理解に努め、自らの生活で使用する化学物質に関する環境への負荷の低減への取組みの実践	(15) 買い物の際は、製品の成分表示をチェックして選んでいる
6 生物多様性の保全のための取組	国等の取組への参加にとどまらず、それぞれの地域における自発的な取組の実践 各主体間で生物多様性保全に向けた問題意識を共有し、連携を保ちつつそれぞれの取組を推進	(16) 皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている
7 市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり	消費者は、消費行動が企業の環境に対する取組を大きく左右することを認識し、得られる情報を元に環境に配慮された商品の選好	(17) 企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている (18) 企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している (19) 物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している (20) エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている
8 環境保全の人づくり・地域づくりの推進	様々な環境保全に関わる取組への積極的な参加・参画、地域づくりに関する計画策定への参加・参画 講習会等で得た知見や技術の、地域における環境保全に関わる取組への活用 日常生活への環境配慮の織り込み	(21) 地域の緑化活動に参加している (22) 地域の美化活動に参加している (23) 地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している (24) 地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む) (25) 地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している (26) 地域のリサイクル活動に参加している (27) その他地域の環境保全活動に参加している (28) 環境について学んだり体験したりする機会を利用している (29) 講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにしている (30) 環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている

設問項目の番号((1)、(2)...)は、アンケート調査票の設問の順番に対応する。

次に、国民に期待される取組の分野ごとに結果をみると以下のとおりである。

1 地球温暖化問題に対する取組

3 都市における良好な大気環境の確保に関する取組

実行率(4段階の回答のうち、「いつも行っている」「だいたい行っている」の合計)が高かったのは、

「日常生活において節電に努めている」(73%)

「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている」(78%)

「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」(68%)

「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」(64%)

である。

一方で、実行率が低かったのは、

「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」(40%)

「地域で取れる食材や建材などを利用している」(38%)

である。

2 物質循環の確保と循環型社会の構築のための取組

実行率が高かったのは、

「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」(91%)

「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」(82%)

一方で実行率が低かったのは、

「不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている」(33%)

などである。

4 環境保全上健全な水循環の確保に向けた取組

「日常生活において節水に努めている」(66%)

「油や食べかすなどを排水口から流さない」(75%)

といずれも6割を超え実行率が高い。

5 化学物質の環境リスクの低減に向けた取組

前回調査と比較すると、実行率が増加している(40→53%)。

6 生物多様性の保全のための取組

実行率は29%で、他の分野と比較するとやや低い。

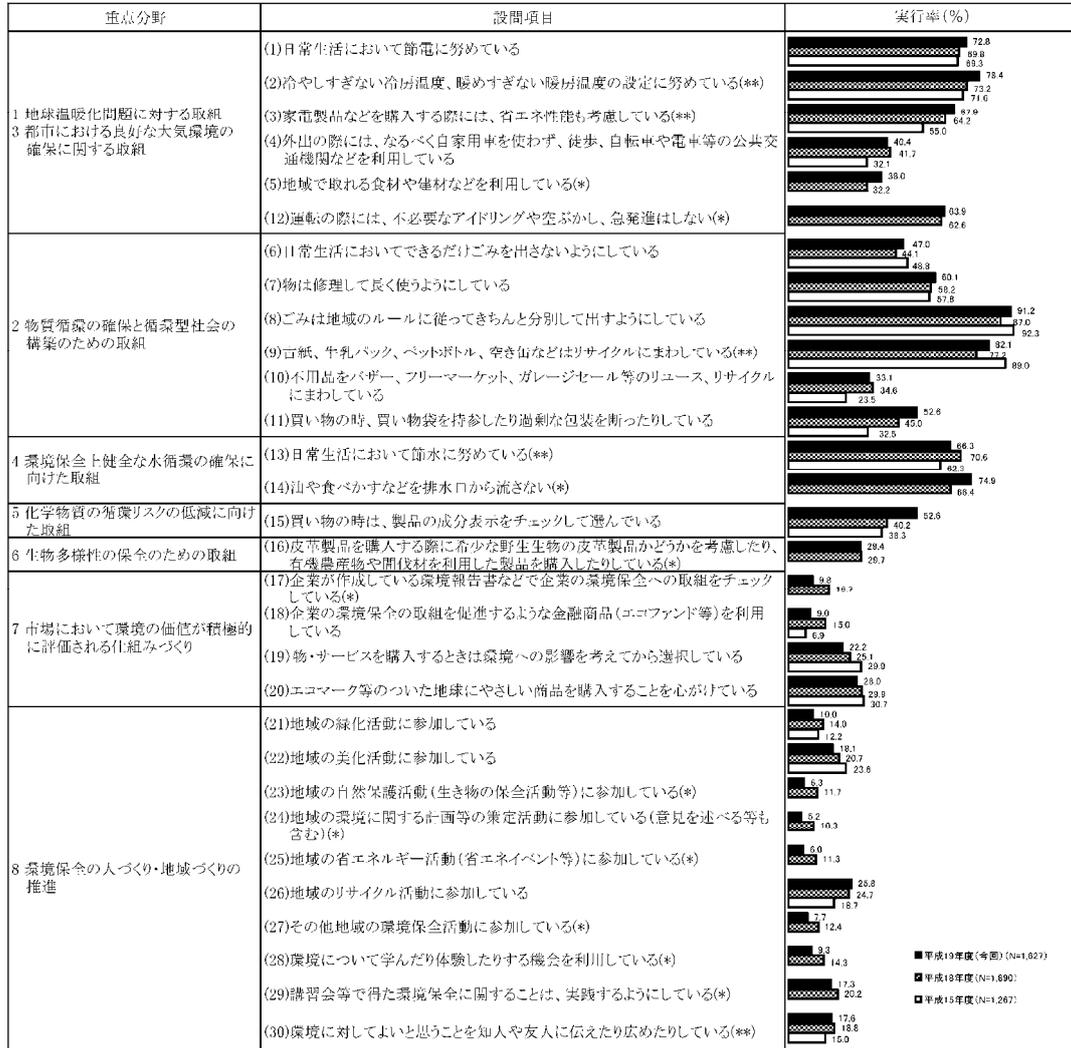
7 市場において環境の価値が積極的に評価される仕組みづくり

各項目の実行率が9~28%となっており、他の分野と比較すると低く、全ての項目で前回調査から比率が低下している。

8 環境保全の人づくり・地域づくりの推進

各項目の実行率が5~26%となっており、他の分野と比較すると低い比率となっている。

図表 4-2 環境基本計画に揚げられた「国民の取組」に関する環境保全行動の実施状況
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」比率の合計)



注) 1. *印は、前回の調査より追加した項目を示す。
 2. **印は前々回の調査と設問が異なる。
 3. 設問項目の番号((1)、(2)...))は、アンケート調査票の設問の順番に対応する。

4-2 現在の実施状況

環境保全行動のうち、「個人」で対応できるものや家庭内の工夫により対応が可能なものについては実行率が高い(ごみ出しや資源物の分別排出等のルール化されたもの、節電・節水等の金銭的な負担に関わるもの)。また、民間団体の活動参加や支援を通じた活動は高まりつつあるが、「地域」や「国・自治体」主導での行動は実行率が低い。

環境保全行動を「どの程度行っているか」という質問に対して、「いつも行っている」または「だいたい行っている」と回答した割合(実行率)が70%以上の項目は以下のとおりである。

実行率が70%以上の項目

- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」(91%)
- 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」(82%)
- 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている」(78%)
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」(75%)
- 「日常生活において節電に努めている」(73%)

環境保全行動を「どの程度行っているか」という質問に対して、「いつも行っている」または「だいたい行っている」と回答した割合(実行率)が30%未満の項目は以下のとおりである。

実行率が30%未満の項目

- 「自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている」(29%)
- 「エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている」(28%)
- 「地域のリサイクル活動に参加している」(26%)
- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択している」(22%)
- 「地域の美化活動に参加している」(18%)
- 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている」(18%)
- 「講習会等で得た環境保全に関する情報は、実践するようにしている」(17%)
- 「地域の緑化活動に参加している」(10%)
- 「企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている」(10%)
- 「環境について学んだり体験したりする機会を利用している」(9%)
- 「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している」(9%)
- 「その他地域の環境保全活動に参加している」(8%)
- 「地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している」(6%)
- 「地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している」(6%)
- 「地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)」(5%)

以上の結果により、環境保全行動については、ごみ出しや節電・節水等の「個人」で対応できる行動や家庭内の工夫で取り組める行動の実行率は高いが、「地域」や「国・自治体」主導による行動や参加が必要なものは実行率が低い様子が見える。

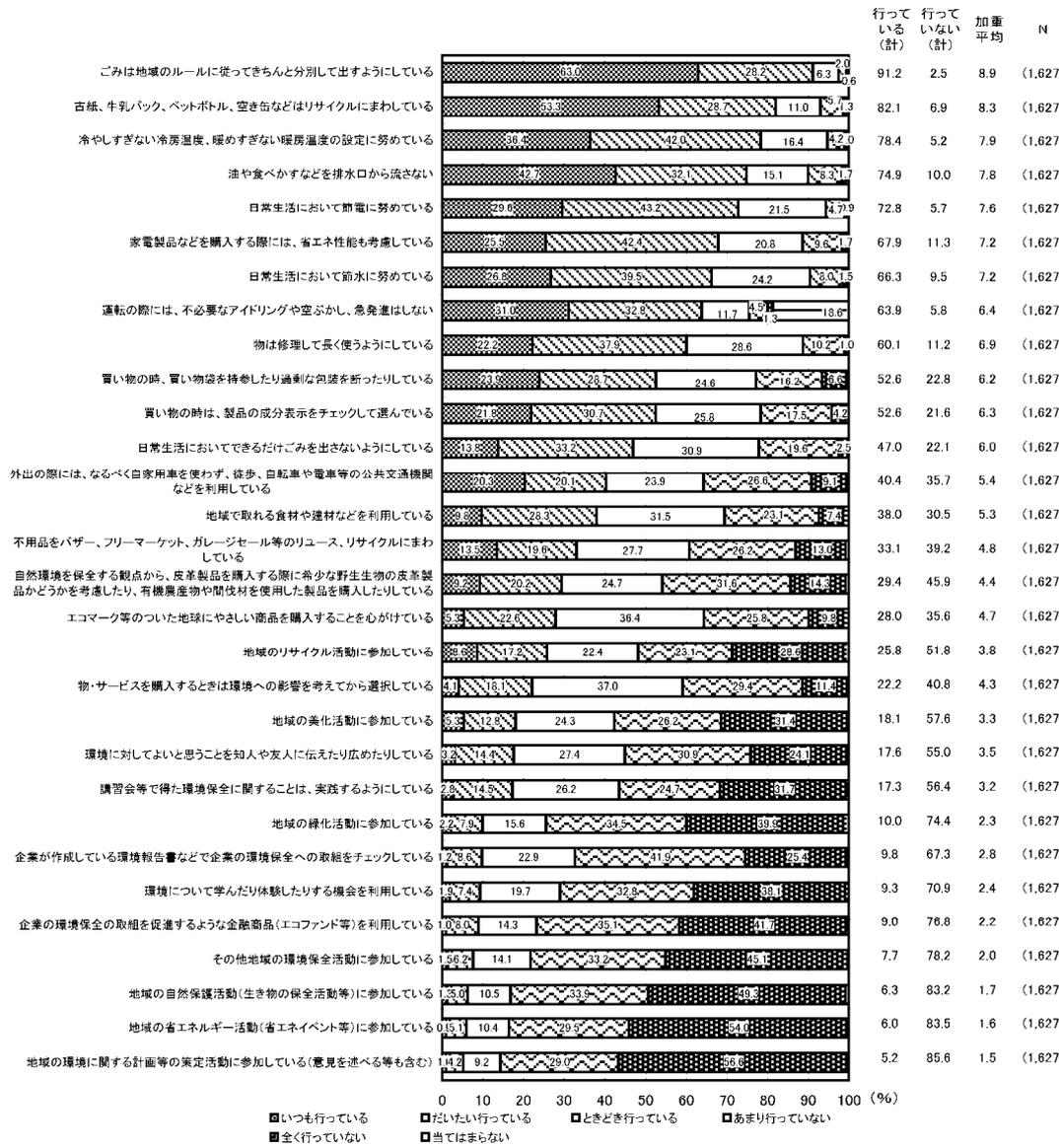
前回調査と比較して比率が上昇した項目(5%以上)は、以下のとおりである。

- 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」(77 82%)
- 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている」(73 78%)
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」(66 75%)
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」(45 53%)、
- 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」(40% 53%)
- 「地域でとれる食材や建材などを利用している」(32 38%)

一方、前回調査と比較して比率が低下した項目(5%以上)は、以下のとおりである。

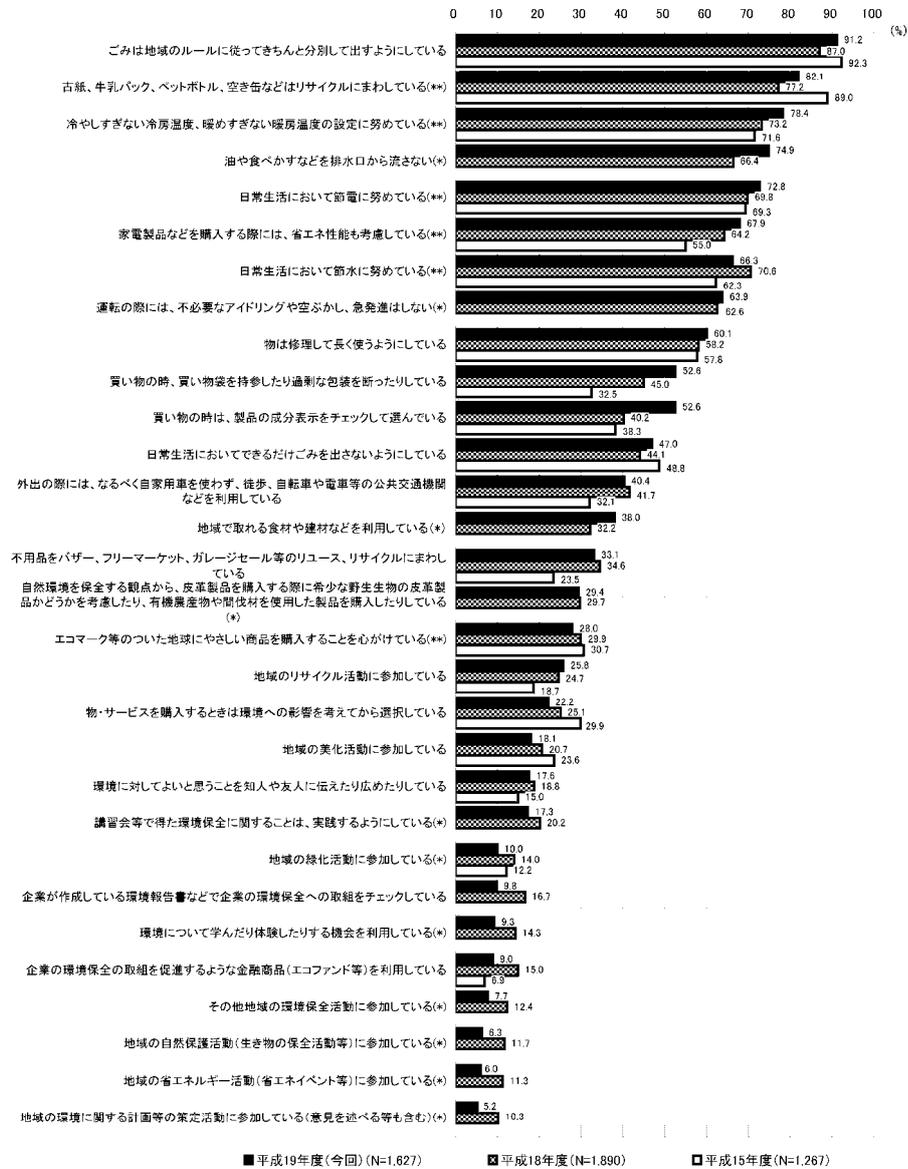
- 「日常生活において節水に努めている」(71 66%)
- 「企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている」
(17 10%)
- 「環境について学んだり体験したりする機会を利用している」(14 9%)
- 「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している」
(15 9%)
- 「地域の自然保護活動(生き物の保全活動等に参加している」(12 6%)
- 「地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している」(11 6%)
- 「地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)」(10 5%)

図表 4-3 環境保全行動の実態(全体)



注) この項の加重平均は、「いつも行っている」に10点、「だいたい行っている」に8点、「ときどき行っている」に5点、「あまり行っていない」に2点、「全く行っていない」に0点、を与えて算出した。

図表 4-4 環境保全行動の実態(全体、時系列)
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」の比率の合計)



注) 1. *印のものは、前回の調査より追加した項目を示す。
 2. **印のものは、前々回の調査と設問が異なる。

性別にみると、男性の方が女性よりも実行率が 5%以上高い項目は「運転の際には、 unnecessary アイドリングや空ぶかし、急発進はしない」のみである。一方、女性の方が男性よりも実行率が 10%以上高い項目は以下に示すとおりである。環境保全行動は、女性の方が積極的に実行していることがうかがえる。

- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」
- 「日常生活において節電に努めている」
- 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」
- 「日常生活において節水に努めている」
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」
- 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」
- 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
- 「地域のリサイクル活動に参加している」

年齢別にみると、実行率は年齢が高くなるほど高い傾向があり、20代で低く、60代、70代以上で高い。20代で全体の比率よりも 10%以上低い項目は次のとおりである。

- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする」
- 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」
- 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」
- 「日常生活において節水に努めている」
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」
- 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
- 「地域のリサイクル活動に参加している」

職業別(その他を除く)にみて、実行率が全体の比率よりも 10%以上高い項目は次のとおりである。項目数からみて専業主婦が環境保全行動の重要な担い手になっていることがわかる。

- 農林漁業 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている」
「地域の緑化活動に参加している」
- 自由業 「日常生活において節電に努めている」
「日常生活において節水に努めている」
「物は修理して長く使うようにしている」
「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
「エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている」
「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている」
「講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにしている」

- 会社役員・会社経営
 - 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている」
 - 「油や食べかすを排水口から流さない」
 - 「物は修理して長く使うようにしている」
- 団体職員
 - 「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
 - 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
 - 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている」
 - 「地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している」
- 学生
 - 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 専業主婦
 - 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている」
 - 「油や食べかすなどを排水口から流さない」
 - 「日常生活において節電に努めている」
 - 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」
 - 「日常生活において節水に努めている」
 - 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」
 - 「買い物の際は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
 - 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」
 - 「地域で取れる食材や建材などを利用している」
 - 「地域のリサイクル活動に参加している」
- 無職
 - 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」
 - 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
 - 「地域の美化活動に参加している」

図表 4-5 環境保全行動の実態(性別、年齢別、職業別)
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」の比率の合計)

	単位：%																				
	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,627	795	832	274	332	266	308	306	141	16	95	28	35	460	73	18	62	211	367	182	80
ごみは地域のルールに従ってきちんと分別し出すようになっている	91.2	88.3	94.0	79.6	90.1	94.4	91.9	97.1	96.5	93.8	88.4	92.9	97.1	85.2	91.8	88.9	77.4	95.7	96.6	92.9	95.0
古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている	82.1	77.5	86.4	66.1	79.5	83.5	84.4	90.8	92.2	68.8	78.9	89.3	94.3	72.8	86.3	83.3	59.7	89.1	90.4	87.4	73.3
冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている	78.4	73.8	82.7	69.7	74.4	80.1	74.7	87.3	90.1	75.0	72.6	78.6	82.9	68.5	76.7	66.7	69.4	80.1	89.1	85.7	78.3
油や食べかすなどを排水口から流さない	74.0	65.2	84.1	61.3	76.2	75.2	72.7	83.0	84.4	62.5	64.2	76.6	65.7	66.5	74.0	50.0	68.1	79.1	87.9	76.4	85.0
日常生活において節電に努めている	72.8	66.4	79.0	63.1	68.1	74.4	70.5	81.4	86.5	62.5	67.4	85.7	80.0	64.1	71.2	50.0	56.5	76.3	82.9	77.5	75.0
家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している	67.9	61.5	74.0	46.5	65.1	70.7	68.5	79.7	80.1	75.0	61.1	71.4	65.7	59.3	56.2	66.7	32.3	75.4	81.9	72.0	65.0
日常生活において節水に努めている	66.3	59.1	73.1	54.7	61.7	66.5	63.6	75.8	83.7	58.3	64.2	76.6	62.9	54.1	67.1	50.0	46.8	72.5	78.6	68.7	76.7
運転の際には、不必要なアイドリングや空ぶかし、急発進はしない	63.9	66.9	60.9	56.6	65.4	71.8	65.3	63.7	56.7	68.8	66.3	64.3	51.4	66.5	71.2	83.3	46.8	62.1	63.3	62.6	61.7
物は修理して長く使うようになっている	60.1	61.0	59.3	53.6	53.3	57.5	58.8	67.6	80.1	68.8	64.2	85.7	74.3	55.0	56.2	61.1	56.5	57.8	60.2	67.6	63.3
買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている	52.6	42.6	62.1	47.4	49.4	50.4	51.0	59.2	63.8	37.5	48.4	57.1	51.4	41.5	47.9	38.9	51.6	64.5	65.1	49.5	45.0
買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	52.6	43.0	61.7	43.1	47.3	45.9	50.3	63.4	77.3	56.3	49.5	60.7	31.4	40.0	39.7	50.0	38.7	56.9	69.3	59.9	46.7
日常生活においてできるごみを出さないようになっている	47.0	40.9	52.8	29.6	31.9	42.1	49.7	66.7	76.8	43.8	46.3	46.4	45.7	33.3	45.2	50.0	26.8	47.4	60.5	58.2	55.0
外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している	40.4	38.0	42.7	39.4	34.3	33.5	36.0	46.4	66.0	31.3	26.3	60.7	34.3	35.4	30.1	22.2	56.5	37.4	43.9	54.4	43.3
地域で取れる食材や建材などを利用している	38.0	30.9	44.8	27.4	34.0	29.3	36.4	52.9	56.0	68.8	34.7	39.3	37.1	25.7	35.6	50.0	25.8	36.5	52.2	42.9	41.7
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている	33.1	29.4	36.7	25.2	40.7	32.7	27.3	37.6	34.8	37.5	30.5	32.1	34.3	31.3	39.7	33.3	19.4	33.6	37.5	31.3	31.7
自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生動物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を利用した製品を購入したりしている	29.4	26.8	32.0	21.2	26.5	25.2	29.2	36.9	44.7	50.0	29.5	35.7	25.7	26.1	20.5	27.8	19.4	26.1	33.9	36.3	33.3
エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている	28.0	23.0	32.7	19.7	19.6	24.1	30.2	34.6	51.8	25.0	26.3	39.3	25.7	20.0	20.5	22.2	21.0	32.2	34.1	36.3	26.7
地域のリサイクル活動に参加している	25.8	20.0	31.4	15.0	19.0	25.9	28.6	35.3	36.2	25.0	25.3	21.4	26.6	16.3	20.5	27.8	14.5	28.4	36.2	28.0	35.0
物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択している	22.2	18.9	25.4	15.3	18.4	19.2	22.7	25.8	41.1	18.8	22.1	32.1	17.1	14.3	21.9	16.7	19.4	25.1	27.6	29.1	20.0
地域の美化活動に参加している	18.1	18.5	17.8	10.2	9.6	17.7	21.8	24.5	32.6	25.0	20.9	25.0	17.1	12.4	15.1	22.2	9.7	18.0	20.7	28.6	18.3
環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている	17.6	15.3	19.8	16.8	13.6	13.9	17.9	23.2	23.4	12.5	22.1	32.1	14.3	12.4	17.8	27.8	21.0	19.0	18.6	19.8	23.3
講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようになっている	17.3	15.3	19.2	13.5	10.5	13.5	19.2	23.2	31.2	18.8	18.9	28.6	22.9	10.7	20.5	22.2	16.1	15.6	21.7	20.3	21.7
地域の緑化活動に参加している	10.0	11.2	8.9	6.2	4.8	9.8	10.4	14.4	19.9	25.0	15.8	7.1	11.4	7.8	5.5	11.1	8.1	7.1	10.3	16.5	10.0
企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている	9.8	11.4	8.3	9.5	9.9	7.9	6.5	10.1	20.6	6.3	14.7	10.7	11.4	10.2	5.5	16.7	12.9	7.6	7.2	12.6	15.0
環境について学んだり体験したりする機会を利用している	9.3	10.8	7.9	8.8	6.9	5.3	10.1	11.8	17.0	18.8	9.5	14.3	11.4	7.6	12.3	16.7	14.5	7.1	7.5	12.1	16.7
企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している	9.0	9.7	8.3	8.0	7.5	6.8	7.5	10.5	18.4	12.5	11.6	10.7	5.7	9.1	6.8	11.1	8.1	8.5	8.0	10.4	10.0
その他地域の環境保全活動に参加している	7.7	8.7	6.7	4.7	4.5	6.0	6.5	11.8	17.7	12.5	6.3	10.7	8.6	6.1	11.0	11.1	8.1	5.2	6.7	12.6	13.3
地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している	6.3	7.5	5.2	4.0	4.2	5.3	6.5	8.8	12.1	0.0	8.4	7.1	8.6	5.0	8.2	11.1	6.5	4.7	4.7	12.1	8.3
地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している	6.0	7.3	4.8	4.4	4.5	4.5	5.8	7.8	12.1	12.5	7.4	10.7	5.7	4.8	6.8	16.7	9.7	4.3	3.9	9.3	11.7
地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を述べる等も含む)	5.2	5.9	4.6	3.6	3.6	4.1	5.5	6.9	9.9	6.3	8.4	14.3	8.6	3.5	5.5	11.1	4.8	4.7	3.9	7.7	8.3

地域別にみると、北海道・東北地方、九州地方は全体より実行率が高い項目が多く、北陸地方、中部地方、近畿地方は全体の比率より実行率が低い項目が多い。全体の比率より実行率が5%以上高い項目を地域別にみると以下のとおりである。

- 北海道・東北 「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
「買い物の時、買い物袋持参したり過剰な包装を断ったりしている」
「日常生活においてできるだけごみをださないようにしている」
- 関東 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 北陸 「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
- 近畿 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」
- 中国・四国 「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」
「地域で取れる食材や建材などを利用している」
「講習会等で得た環境保全に関することは、実践するようにしている」
- 九州 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している」
「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
「地域で取れる食材や建材などを利用している」
「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている」
「地域の美化活動に参加している」

都市規模では、政令指定都市、10万人以上の市で全体の比率より5%以上実行率が高くなる項目は、

- 「外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している」

であるが、それ以外で、都市規模が大きいほど実行率が高くなる項目は、以下の通りである。また町村で全体の比率より5%以上高い項目はみられない。

- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている」
- 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている」
- 「日常生活において節水に努めている」
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりしている」
- 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる」
- 「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりしている」
- 「環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている」

図表 4-6 環境保全行動の実態(地域別、都市規模別)
 (「いつも行っている」「だいたい行っている」の比率の合計)

	地域別									都市規模別			単位: %
	全体	北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村	
調査数(N)	1,627	219	489	86	237	265	143	188	317	809	350	151	
ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにしている	91.2	89.0	91.6	89.5	92.0	90.2	92.3	93.1	91.5	91.5	91.4	88.7	
古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわしている	82.1	82.6	80.4	84.9	85.2	82.3	82.5	79.8	81.4	83.4	82.9	74.2	
冷やしすぎない冷蔵庫温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努めている	78.4	74.9	79.8	73.3	79.3	80.8	76.9	77.7	79.2	79.2	78.3	72.2	
油や食べかすなどを排水口から流さない	74.9	73.1	74.6	72.1	74.7	74.0	79.0	77.1	74.8	75.8	76.0	67.5	
日常生活において節電に努めている	72.8	72.1	73.4	61.6	70.0	75.8	71.3	77.7	70.7	74.4	74.6	64.9	
家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮している	67.9	65.8	67.7	65.1	62.9	70.6	66.4	76.1	68.8	67.9	71.1	58.9	
日常生活において節水に努めている	66.3	68.5	67.9	58.1	64.6	67.5	62.2	66.5	68.1	66.5	66.3	60.9	
運転の際には、不要なアイドリングや空ぶかし、急発進しない	63.9	68.9	60.9	70.9	68.8	52.5	71.3	66.5	53.9	63.4	72.9	66.2	
物は修理して長く使うようにしている	60.1	63.0	61.3	55.8	58.2	57.7	58.0	62.8	57.7	61.3	61.4	55.6	
買い物の時、買い物袋を持参したり通商な包装を断ったりしている	52.6	58.9	51.5	55.8	55.7	52.8	43.4	49.5	55.5	55.0	49.7	40.4	
買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選んでいる	52.6	47.9	54.6	53.5	51.5	49.4	46.9	62.2	56.5	51.7	52.9	48.3	
日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている	47.0	54.3	46.8	40.7	43.9	44.9	42.7	51.6	47.9	45.7	50.0	44.4	
外出の際には、なるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用している	40.4	27.9	48.1	33.7	36.7	53.2	25.9	35.6	52.4	45.4	27.4	18.5	
地域で取れる食材や産物などを利用している	38.0	39.3	33.9	40.7	39.2	28.7	45.5	52.1	34.1	37.1	45.4	34.4	
不用品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわしている	33.1	33.3	30.9	32.6	35.0	33.2	31.5	37.8	29.0	34.2	36.0	29.1	
自然環境を保全する観点から、皮革製品を購入する際に希少な野生動物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を利用した製品を購入したりしている	29.4	29.7	31.1	24.4	23.2	29.8	28.0	35.6	30.9	30.8	26.9	25.2	
エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がけている	28.0	32.4	26.2	26.7	25.7	28.3	27.3	30.9	30.0	26.3	30.3	27.2	
地域のリサイクル活動に参加している	25.8	28.3	23.9	23.3	26.2	27.9	23.8	27.1	22.4	26.6	29.1	21.2	
物・サービスを購入するときは環境への影響を考慮してから選択している	22.2	19.6	20.7	23.3	20.7	26.0	19.6	27.1	24.6	21.5	21.4	22.5	
地域の美化活動に参加している	18.1	21.0	14.1	11.6	18.6	18.9	18.9	26.1	14.5	18.3	21.1	17.9	
環境に対してよいと思うことを知人や友人に伝えたり広めたりしている	17.6	18.7	17.2	20.9	14.3	16.2	18.2	21.8	18.6	17.9	16.6	16.6	
講習会等で得た環境保全に関する情報は、実践するようにしている	17.3	18.3	15.1	18.6	16.5	16.6	22.4	19.7	15.8	16.7	20.6	16.6	
地域の緑化活動に参加している	10.0	12.8	8.0	5.8	10.5	10.9	10.5	11.7	6.6	10.0	13.1	9.9	
企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックしている	9.8	9.1	10.0	11.6	8.9	10.9	9.1	9.6	9.5	9.6	10.6	9.9	
環境について学んだり体験したりする機会を利用している	9.3	10.5	8.8	9.3	8.9	10.2	9.1	9.0	8.8	10.0	10.0	5.3	
企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用している	9.0	8.2	8.2	10.5	7.2	10.6	8.4	11.7	8.8	8.9	9.4	8.6	
その他地域の環境保全活動に参加している	7.7	7.8	6.3	7.0	7.6	7.5	12.6	8.0	5.7	7.5	11.4	4.0	
地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加している	6.3	6.4	4.1	7.0	6.3	7.9	7.7	8.5	4.1	7.2	7.1	4.6	
地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加している	6.0	5.0	4.9	5.8	5.5	6.8	9.8	6.9	5.0	6.3	6.6	5.3	
地域の環境に関する計画等の策定活動に参加している(意見を送る等も含む)	5.2	4.1	4.5	5.8	4.6	6.4	4.9	7.4	4.4	5.4	6.0	4.0	

4-3 将来の実施意向

環境保全行動に対する今後の実施意向が高い項目は、省エネ、資源の適切な利用など、現在実施されているものを中心となっている。

環境保全行動を「あまり行っていない」「全く行っていない」とそれぞれの項目で回答した人に、項目ごとに将来実施の意向を尋ねたところ、「行いたいと思う」と回答した比率（「意向率」）が50%以上となる項目は全30項目中9項目であった。

意向率50%以上の項目

- 「日常生活において節水に努める」(72%)
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」(72%)
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」(66%)
- 「日常生活において節電に努める」(64%)
- 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわす」(64%)
- 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮する」(64%)
- 「買い物の時、買い物袋を持参したり過剰な包装を断ったりする」(61%)
- 「物は修理して長く使うようにする」(53%)
- 「エコマーク等のついた地球にやさしい商品を購入することを心がける」(53%)

また、上記に続く意向率40%以上50%未満の項目は以下の10項目である。

意向率40%以上50%未満の項目

- 「物・サービスを購入するときは環境への影響を考えてから選択する」(50(49.5)%)
- 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努める」(49%)
- 「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりする」(49%)
- 「不要品をバザー、フリーマーケット、ガレージセール等のリユース、リサイクルにまわす」(47%)
- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする」(46%)
- 「講習会等で得た環境保全に関することは実践する」(43%)
- 「環境について学んだり体験したりする機会を利用する」(43%)
- 「地域で取れる食材や建材などを利用する」(42%)
- 「買い物の時は、製品の成分表示をチェックして選ぶ」(42%)
- 「地域のリサイクル活動に参加する」(41%)

前回の調査と比較すると、前回よりも意向率が5%以上上昇した項目は、以下の2項目である。

意向率の上昇が5%以上ある項目

- 「皮革製品を購入する際に希少な野生生物の皮革製品かどうかを考慮したり、有機農産物や間伐材を使用した製品を購入したりする」(40 49%)
- 「地域で取れる食材や建材などを利用する」(37 42%)

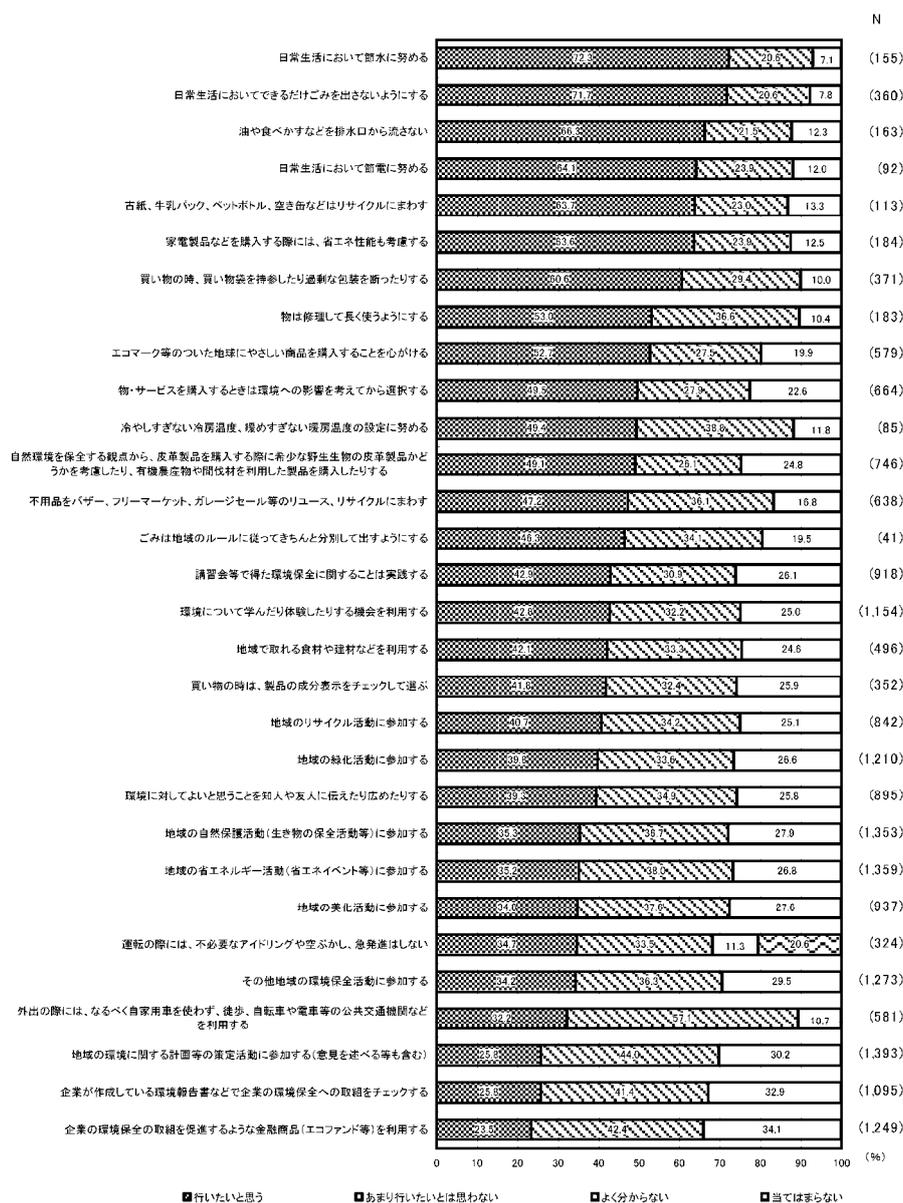
一方、5%以上の意向率の低下がみられた項目は、以下の5項目である。

意向率の低下が5%以上ある項目

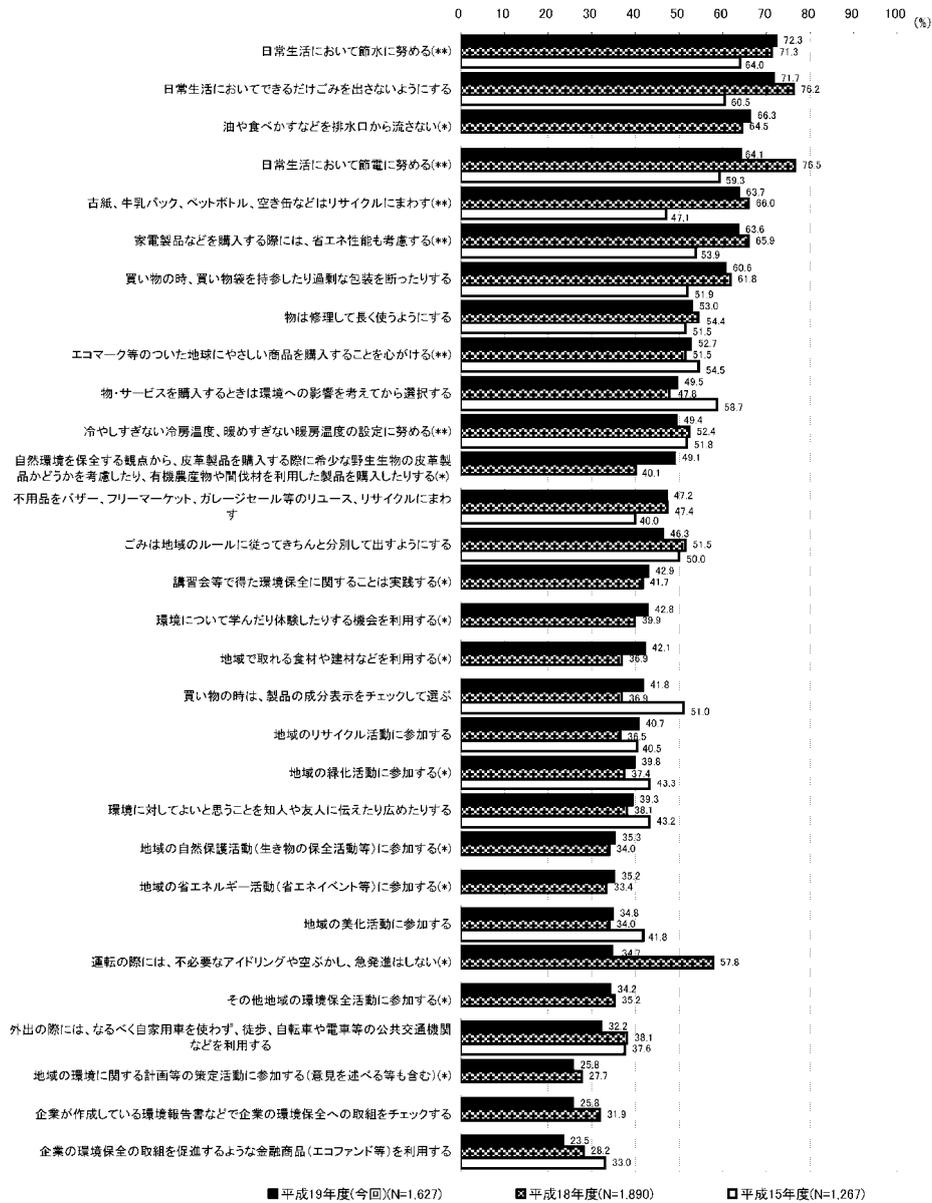
- 「日常生活において節電に努める」(77 64%)

- 「ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出すようにする」(52 46%)
- 「運転の際には、 unnecessaryなアイドリングや空ぶかし、急発進はしない」(58 35%)
- 「外出の際にはなるべく自家用車を使わず、徒歩、自転車や電車等の公共交通機関などを利用する」(38 32%)
- 「企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全への取組をチェックする」(32 26%)

図表 4-7 将来の実施意向
 (「あまり行っていない」「全く行っていない」を選択した人のみ)



図表 4-8 将来の実施意向(時系列)
 (「あまり行っていない」「全く行っていない」を選択した人のみ)



注) 1. *印は前回の調査で加えた項目である。
 2. **印は、前々回調査と設問が異なる。

4-3-1 将来の実施意向(全員回答)

既に実施済みのもも含んだ今後の実施意向においては、ごみ出しでのルール順守や資源分別、節電、適切な温度調節など、現在実施されている項目が高い。

「個人」で対応できる項目の意向率が高いが、「地域」や「集団」での対応が必要な項目の意向率は低い。

回答者全員に、将来実施の意向を尋ねたところ、過半数の人が「行いたいと思う」と回答した項目は全30項目中24項目にのぼった。

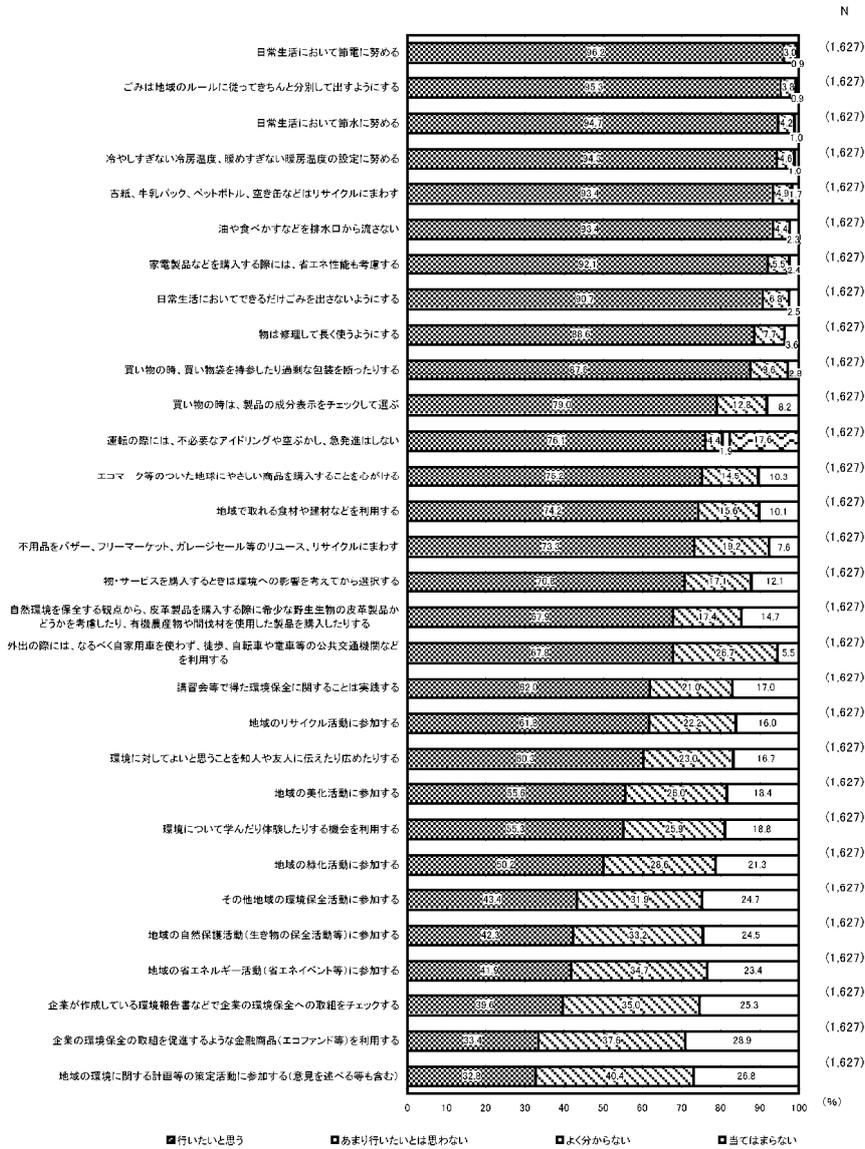
このうち、「行いたいと思う」と回答した比率が(「意向率」)が、高い項目(90%以上)は以下のとおりである。

- 「日常生活において節電に努める」(96%)
- 「ごみは地域のルールに従って、きちんと分別して出すようにする」(95%)
- 「日常生活において節水に努める」(95%)
- 「冷やしすぎない冷房温度、暖めすぎない暖房温度の設定に努める」(94%)
- 「古紙、牛乳パック、ペットボトル、空き缶などはリサイクルにまわす」(93%)
- 「油や食べかすなどを排水口から流さない」(93%)
- 「家電製品などを購入する際には、省エネ性能も考慮する」(92%)
- 「日常生活においてできるだけごみを出さないようにする」(91%)

一方、意向率が50%を下回る項目は以下のとおりである。

- 「その他地域の環境保全活動に参加する」(43%)
- 「地域の自然保護活動(生き物の保全活動等)に参加する」(42%)
- 「地域の省エネルギー活動(省エネイベント等)に参加する」(42%)
- 「企業が作成している環境報告書などで企業の環境保全の取組をチェックする」(40%)
- 「企業の環境保全の取組を促進するような金融商品(エコファンド等)を利用する」(33%)
- 「地域の環境に関する計画等の策定活動に参加する(意見を述べる等も含む)」(33%)

図表 4-9 環境保全行動の今後の意向(全体)



4-4 住宅に関する環境保全行動

4-4-1 太陽熱温水器・太陽光発電の利用状況

太陽熱温水器・太陽光発電の利用率は現状では低い。

将来において利用希望する人の比率は今回やや低下したものの3割前後みられる。

(1) 太陽熱温水器

太陽熱温水器の利用状況について、全体では、現在「利用している」人は、5%である。「利用していないが、将来は利用したい」は25%となっている。

過去の調査と比較すると、「将来は利用したい」が前回より約5%低下しているが、前々回調査よりも増加していることから、基本的には大きな変動はないものとみられ、「将来は利用したい」利用意向をもつ層が3割程度存在しているといえる。

性別では、大きな違いがみられなかった。

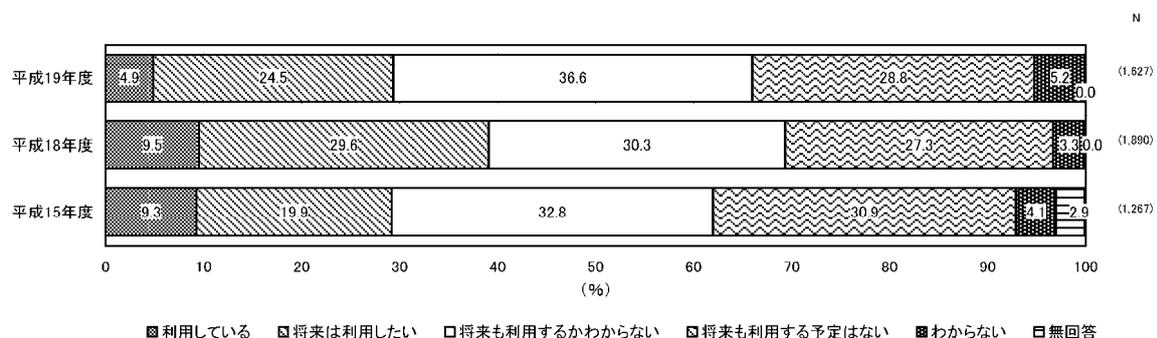
年齢別では、「将来は利用したい」は20代から50代までは年齢が高くなるにつれて比率も高くなる。60代で「将来は利用したい」は21%と最も低くなり、同時に60代、70代以上では「将来も利用する予定はない」比率も高くなる(32%、37%)。

職業別では、農林漁業で「利用している」比率が最も高く(19%)、「将来は利用したい」が最も低い(13%)。団体職員で「将来も利用する予定はない」が最も低い(11%)。会社役員・会社経営で「将来は利用したい」が高く(37%)、学生では低い(16%)。設置に当たっては経済的理由とともに設置空間の制限があるため、農林漁業では比較的設置しやすく、学生では両方の制約から設置が困難とみられる。

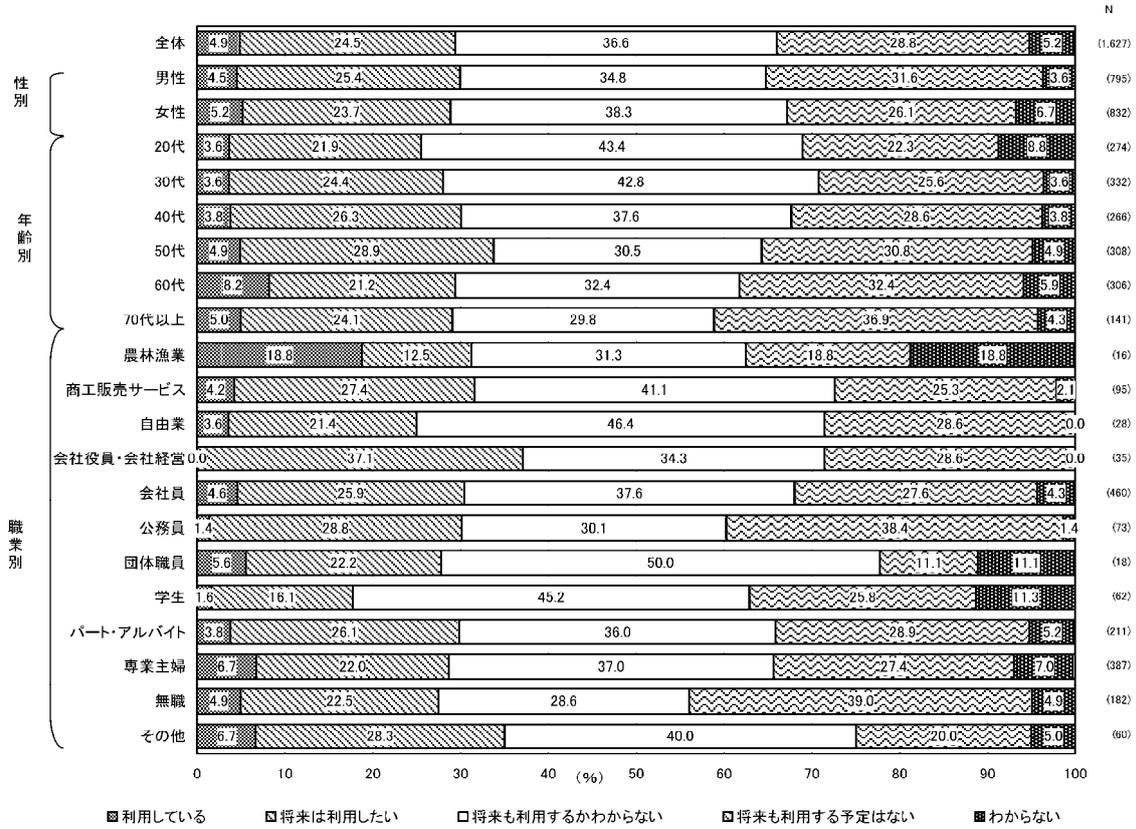
地域別では、いずれの地域においても「将来は利用したい」という利用意向は20%台で大きな違いはない。北陸地方で「将来も利用する予定はない」が高く(41%)、また、中国・四国地方、九州地方では、「利用している」が高い(9%、10%)。これらは、日照や積雪など気象条件が関係するとみられる。

都市規模別には大きな違いがみられなかった。

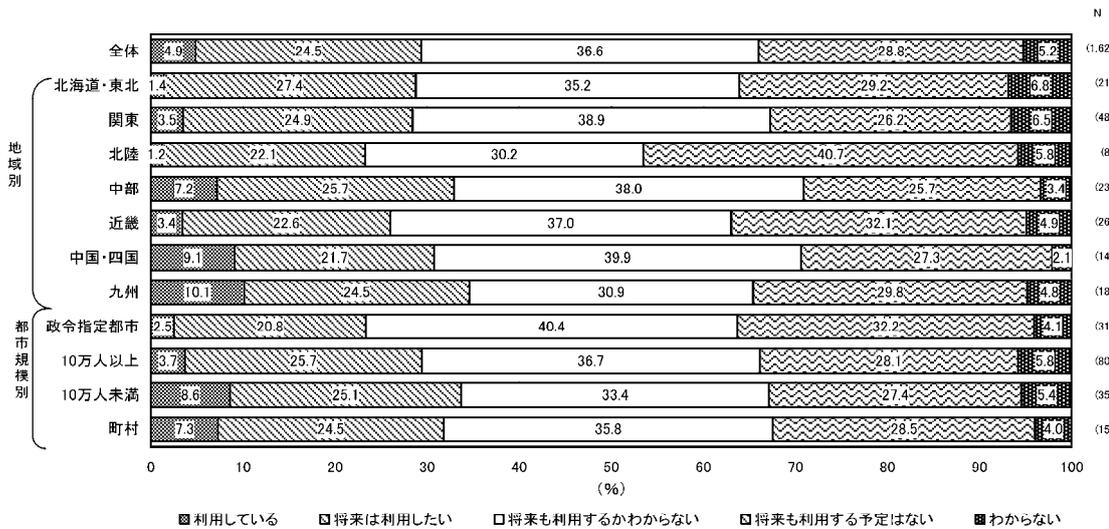
図表 4-10 太陽熱温水器の利用状況(全体、時系列)



図表 4-11 太陽熱温水器の利用状況(性別、年齢別、職業別)



図表 4-12 太陽熱温水器の利用状況(地域別、都市規模別)



(2) 太陽光発電の利用状況

全体では、太陽光発電を、「利用している」は3%であり、「将来は利用したい」は33%である。

これまでの調査と比較すると、「将来は利用したい」は前回調査より7%低下しているが、前々回より大きく増加していることから、基本的には大きな変動はないものとみられ、利用意向をもつ層が3割以上存在しているといえる。

性別では「将来は利用したい」の比率が、女性より男性の方がやや高い(男性35%、女性30%)。

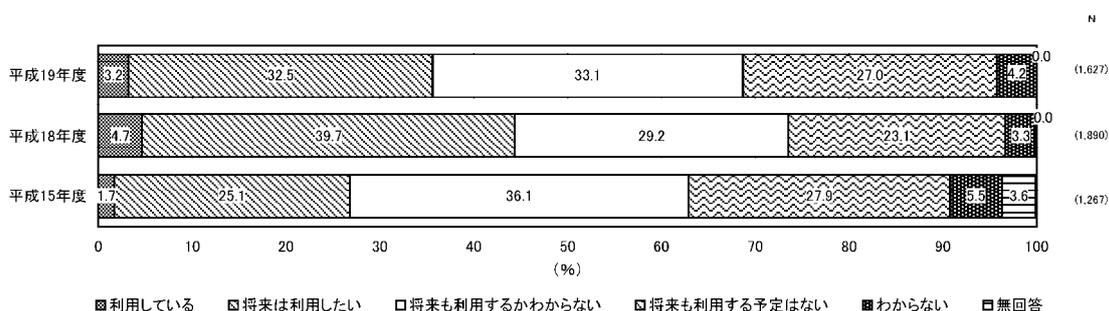
年齢別では、50代で「将来は利用したい」が最も高く(36%)、次いで40代が高くなっている(35%)。70代以上では「将来も利用する予定はない」の比率が最も高くなっている(40%)。

職業別では、「将来は利用したい」が会社役員・会社経営、商工販売サービスで高く(49%、43%)、農林漁業で最も低くなっている(25%)。

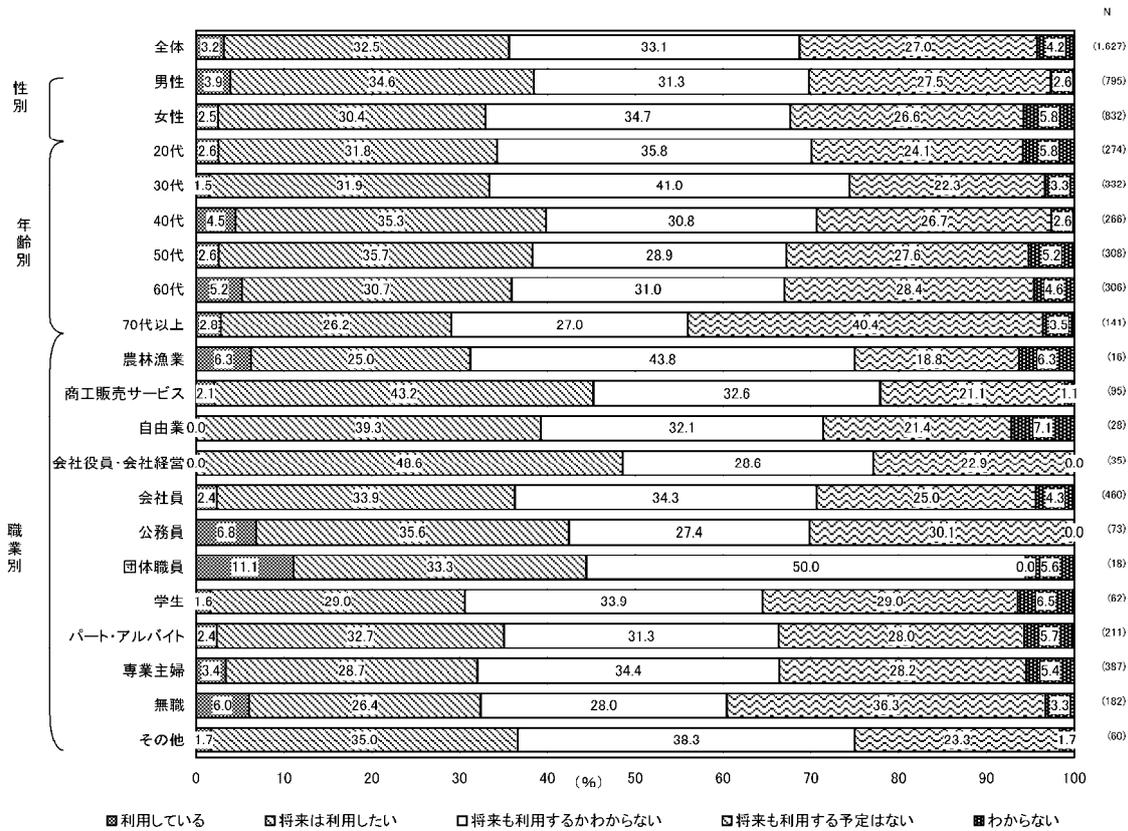
地域別では、「将来は利用したい」利用意向が、中部地方、中国・四国地方、九州地方でいずれも35%と高く、北陸地方では26%となっている。

都市規模別では、人口規模が小さいほど「将来は利用したい」利用意向の比率が高くなる傾向がみられる。

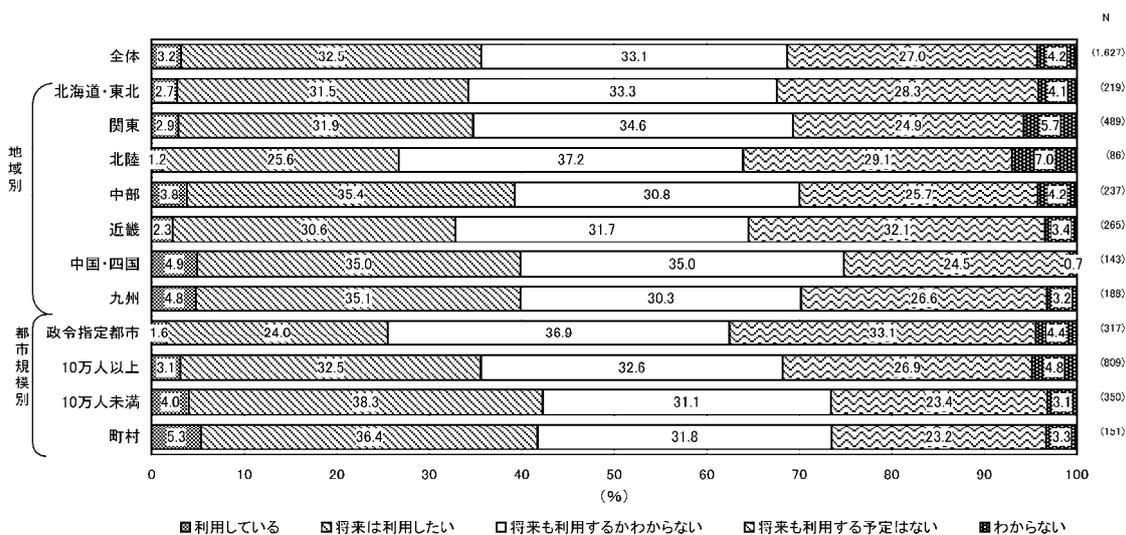
図表 4-13 太陽光発電の利用状況(全体、時系列)



図表 4-14 太陽光発電器の利用状況(性別、年齢別、職業別)



図表 4-15 太陽光発電器の利用状況(地域別、都市規模別)



4-4-2 住宅の新築や改築・改装時の際の断熱

住宅の断熱については、「住宅全体の断熱をしている」が2割、「住宅の一部で断熱をしている」が1割強あり、両者あわせて断熱している住宅比率は3割強である。将来の断熱への意向は2割強ある。

新築や改築・改装の際に断熱をしてある住宅は、全体で「住宅全体の断熱をしている」(21%)、「住宅の一部で断熱をしている」(12%)を合わせると32%であり、「将来は断熱をしたい」(21%)を合わせると全体の53%に上る。

性別では、「住宅全体の断熱をしている」、「住宅の一部で断熱をしている」、「将来は断熱をしたい」を合わせると男性の方が女性より比率が高く、男性は女性に比較して住宅の断熱について意向がやや強いといえる(意向まで含めて男性56%、女性50%)。

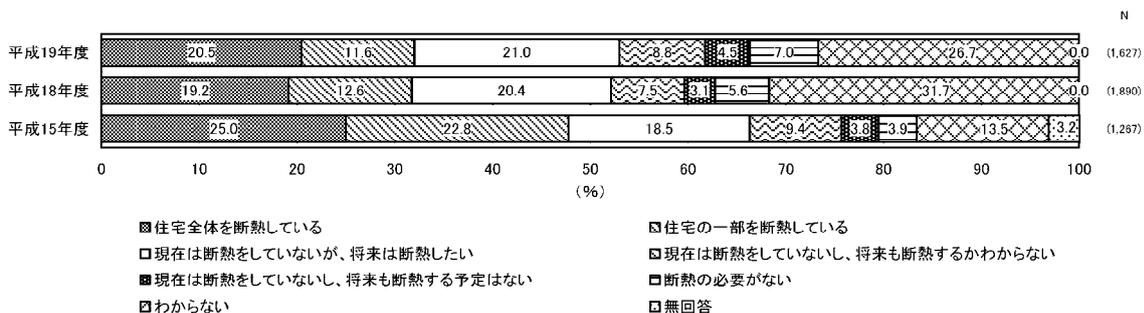
年齢別では、60代まで年齢が高くなるにしたがって断熱に対する意向が強くなり、60代では「住宅全体を断熱している」「住宅の一部で断熱している」(30%、19%)で約5割、これに「将来は断熱したい」を加えると67%と最も高い。

職業別では、団体職員、会社役員・会社経営で「住宅全体を断熱」とする比率が高く(44%、37%)、「住宅の一部断熱」「将来は断熱したい」を合わせた比率は団体職員83%、会社役員・会社経営66%と高い。農林漁業では「住宅全体を断熱」、「住宅の一部を断熱」を合わせた比率は31%と低いが、「将来は断熱したい」を合わせると69%と高くなる。それ以外の職業はほぼ同じ比率を示している。

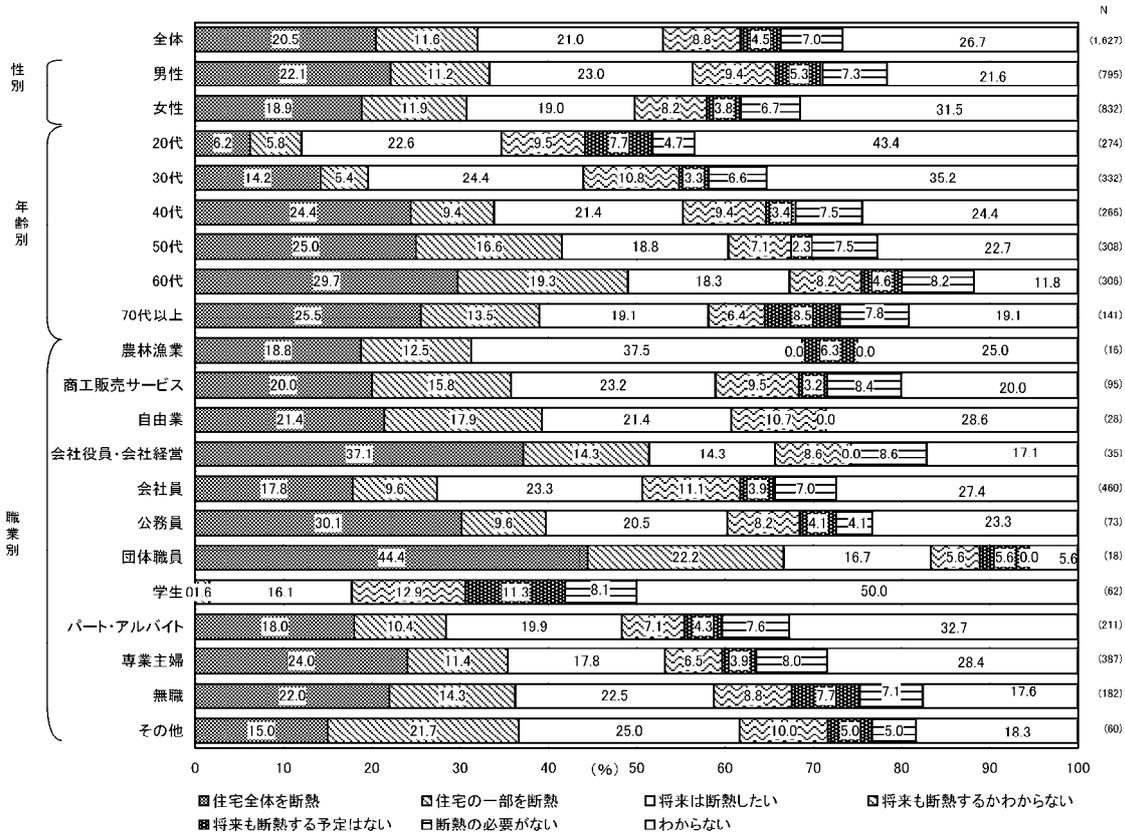
地域別では、寒冷な北海道・東北地方で「住宅の全体を断熱している」比率が高く(43%)、中部地方、近畿地方、九州地方でやや低い(15%、13%、15%)。

都市規模別では、人口が少ないほど「全体を断熱している」、「住宅の一部を断熱」、「将来は断熱したい」を合わせた比率が高くなる傾向がみられる。

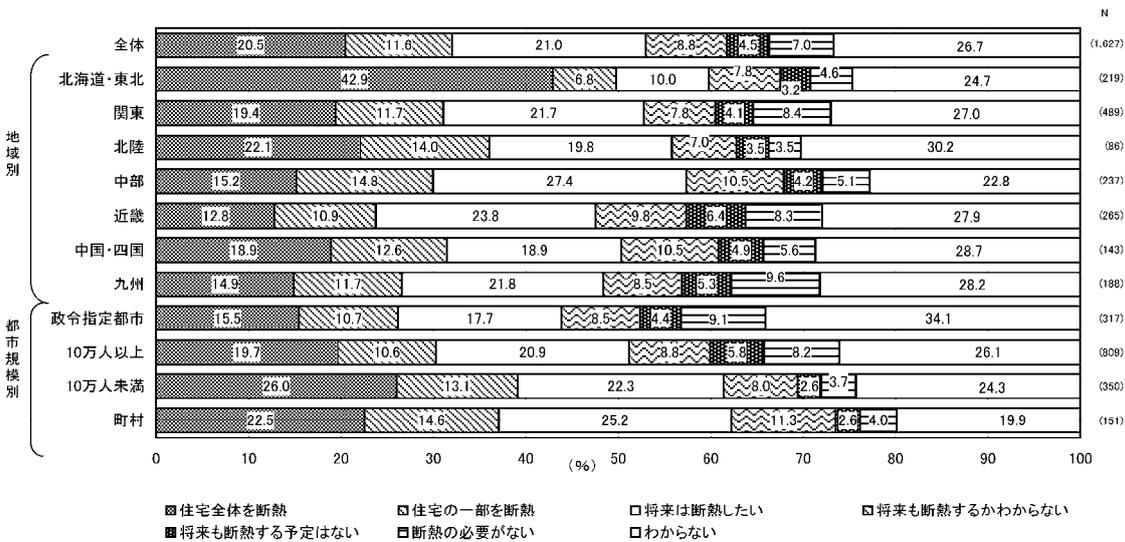
図表 4-16 住宅の新築や改築・改装時の際の断熱(全体、時系列)



図表 4-17 住宅の新築や改築・改装時の際の断熱(性別、年齢別、職業別)



図表 4-18 住宅の新築や改築・改装時の際の断熱(地域別、都市規模別)



4-5 低公害車の購入について

既に購入済みも含め、低公害車の購入を検討する比率は過半数を超えており、少なくとも低公害車に対して何らかの興味を持っている比率は、6割強に及ぶ。

低公害車・低排出ガス車について尋ねたところ、全体では「検討対象としたい」が38%と最も高く、「すでに購入・発注済み」(14%)と合わせると52%が購入を検討ないし購入している。さらに「興味はあるが検討しない」(14%)を合わせた『環境にやさしい自動車』になんらかの興味をもっている人は、全体の66%を占める。

前回調査と比較すると、「すでに購入・発注済み」は1%減少しているが、「検討対象としたい」、「興味はあるが検討しない」を合わせた比率は変化していない。

性別では、男性の方が何らかの興味を抱く比率(「検討対象としたい」「興味はあるが検討しない」の合計)が高い。

年齢別では、20代で「検討対象としたい」がやや低く(30%)、40代、60代でやや高い(46%、44%)。70代以上で「検討対象としたい」がやや低い(32%)のは、「自動車を運転しない」が高い(31%)ためとみられる。

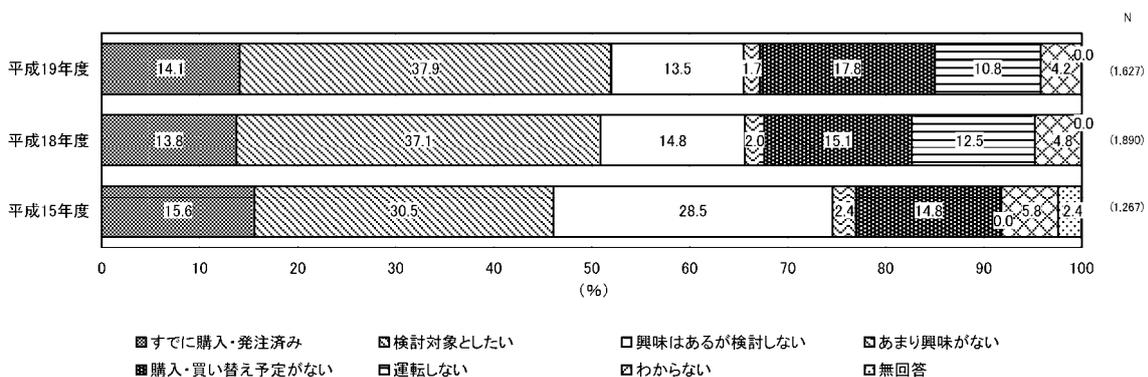
職業別では、以下のような特徴がみられる。

- ・ 「すでに購入・発注済み」は公務員、団体職員で高い(23%、28%)。
- ・ 「検討対象としたい」は会社役員・会社経営、団体職員で高い(60%、67%)
- ・ 「興味はあるが検討しない」は会社員で高い(17%)
- ・ 「あまり興味がない」「購入予定がない」「運転しない」の合計は学生で高い(44%)

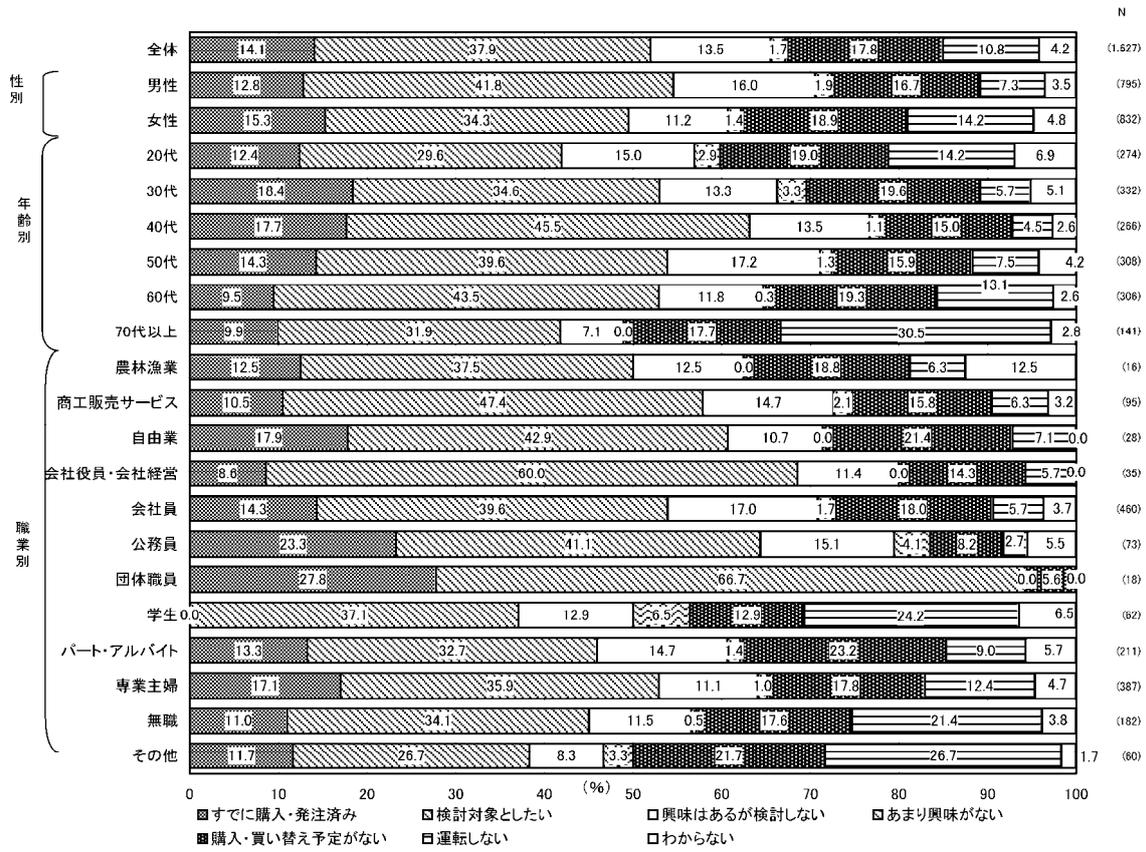
地域別では、「すでに購入・発注済み」の比率が北海道・東北地方、中国・四国地方で高く(18%、16%)、北陸地方で低い(9%)。「検討対象としたい」「興味はあるが検討しない」を含む何らかの興味をもつ比率は北陸地方がやや高く(73%)、次いで九州地方(73%)となっており、近畿地方は「自動車を運転しない」比率が高い(21%)ため、何らかの興味を持つ比率は57%と最も低くなっている。

都市規模別では、「すでに購入・発注済み」の比率は大きな差はみられないが、人口規模が大きいほど「自動車を運転しない」比率が高くなっており、「検討対象としたい」比率が低くなっている。

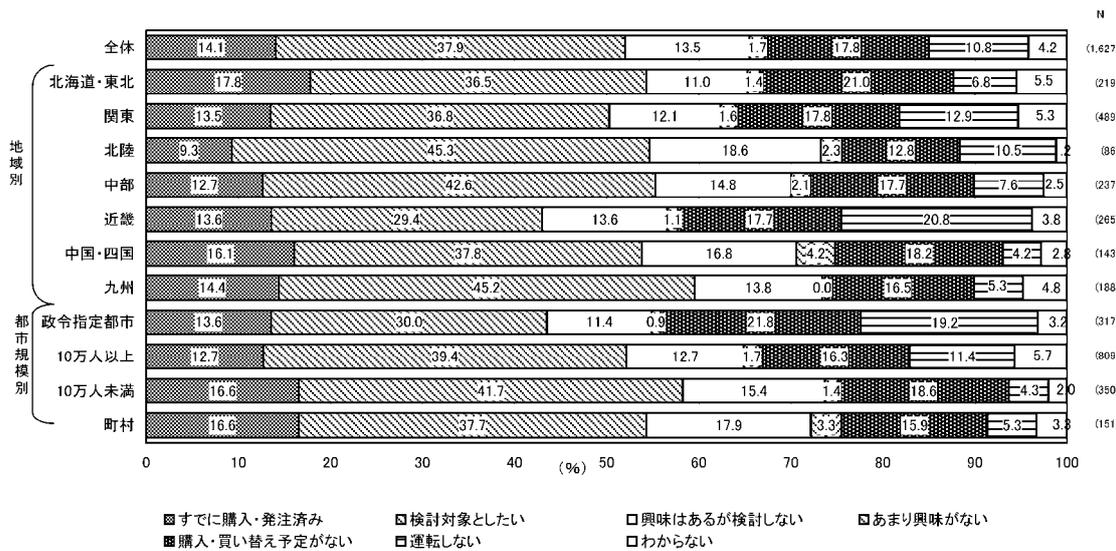
図表 4-19 低公害車の購入検討の有無(全体、時系列)



図表 4-20 低公害車の購入検討の有無(性別、年齢別、職業別)



図表 4-21 低公害車の購入検討の有無(地域別、都市規模別)



4-6 自然とのふれあい

4-6-1 自然とのふれあいについてのニーズ

自然とのふれあいについてのニーズはきわめて高く、「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」と「自然とのふれあいを今より多少増やしたい」を合わせた比率（「今より増やしたい」）は70%にのぼる。年齢別では30代で、職業別では自由業、会社役員・会社経営で「今より増やしたい」とする意向が強くなっている。

自然とのふれあいは、全体では「自然とのふれあいを多少増やしたい」人の比率が最も高く（42%）、次いで「自然とのふれあいを今より大幅に増やしたい」（28%）、「今と同程度」（27%）の順であった。「今より増やしたい」（「大幅に増やしたい」「多少増やしたい」の合計）は70%であり、大多数の人が自然のふれあいを求めているといえる。

前回調査と比較すると、「今より増やしたい」人の比率に変化はないが「自然とのふれあいを大幅に増やしたい」という人がわずかだが増加している。

性別では、ほとんど差はみられなかった。

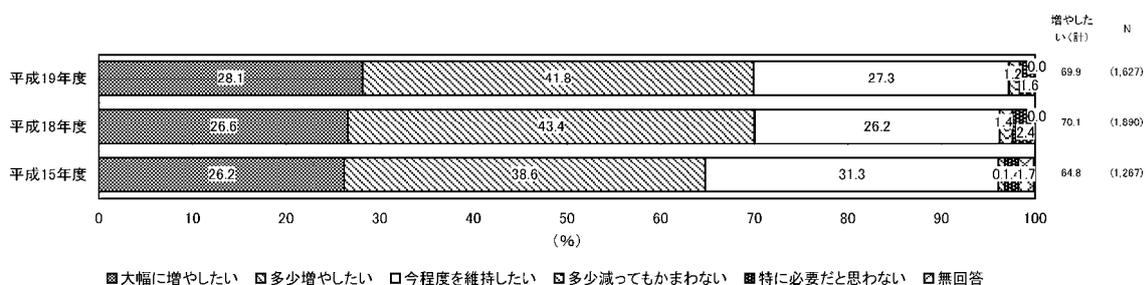
年齢別では、「今より増やしたい」人の比率は30代で76%と最も高く、次いで60代（72%）となっている。一方20代では「今より増やしたい」が71%と高いが、一方で「多少減ってもかまわない」、「特に必要だと思わない」を合わせた意見の比率が5%と他の年代よりやや多い。

職業別では、自由業で「今より増やしたい」人の比率が最も高く（82%）、次いで会社役員・会社経営（74%）となっている。一方、農林漁業は「今程度を維持したい」が50%、「多少減ってもかまわない」「特に必要だと思わない」を合わせた比率が13%とそれぞれもっとも高く、「今より増やしたい」人の比率は38%にとどまっている。また学生では「今より増やしたい」が63%と他の職業に比べて低く、「多少減ってもかまわない」「特に必要だと思わない」を合わせた比率が8%と農林漁業に次いで高い。

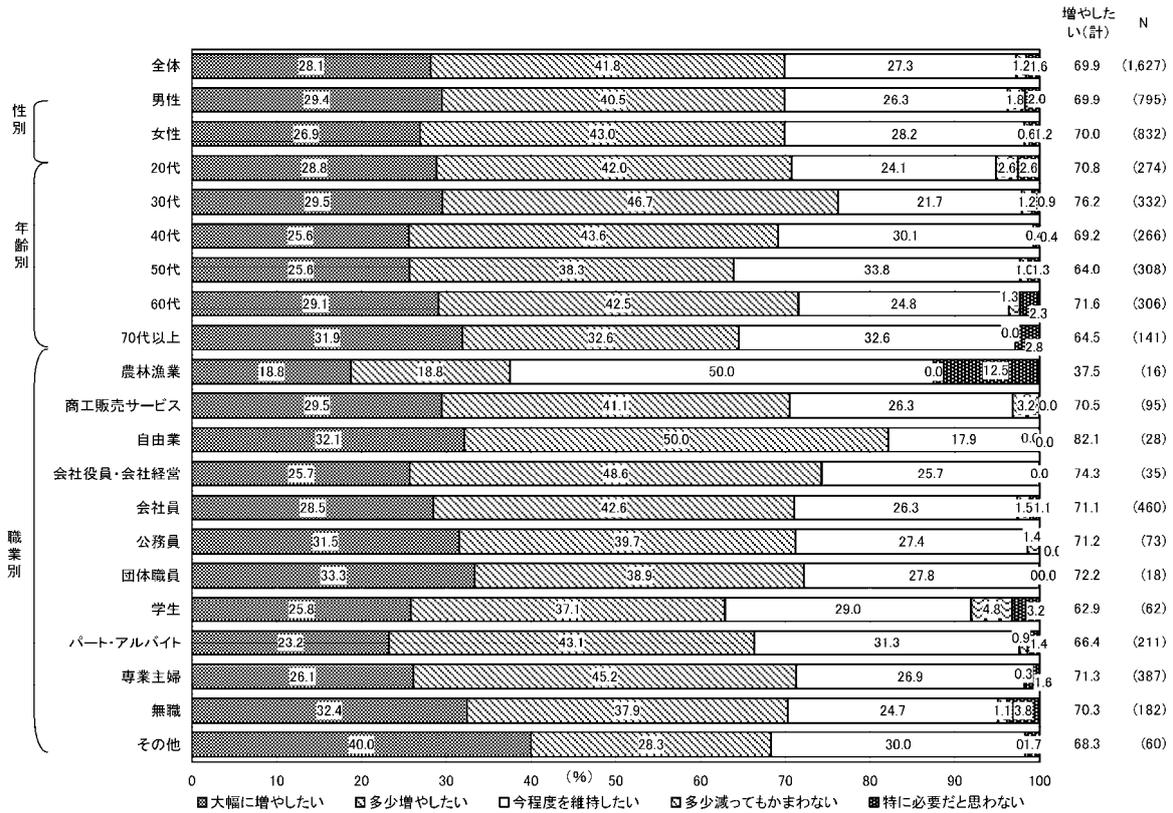
地域別では、九州地方、関東地方で「今より増やしたい」人の比率が高く（76%、73%）、北陸地方は最も低くなっている（61%）。

都市規模別では、規模が大きくなるほど「今より増やしたい」人の比率が高く、政令指定都市で72%、町村で64%となっている。

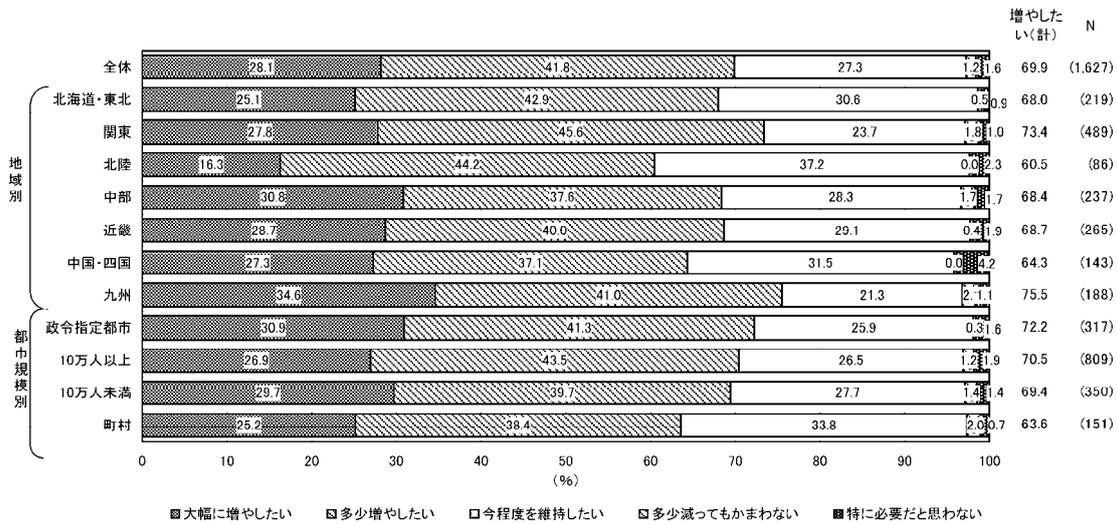
図表 4-22 自然とのふれあいについてのニーズ(全体、時系列)



図表 4-23 自然とのふれあい(性別、年齢別、職業別)



図表 4-24 自然とのふれあい(地域別、都市規模別)



4-6-2 自然とふれあって過ごしている日数

自然とふれあって過ごしている日数は年に20日未満が全体の61%を占め、前回調査と同程度となっており、ふれあい日数の短期化が継続しているといえる。

自然とふれあって過ごしている日数は、全体で「年に10～19日」(24%)が最も高く、次いで「年に1～4日」(20%)、「年に5～9日」(18%)の順である。自然とのふれあいが年に20日未満が全体の61%に上る。

平成15年度からの経年変化をみると、自然とのふれあいが年に20日未満の比率は、平成15年度と比べて大幅に上昇し、平成18年度とはほぼ同程度である(43 63 61%)。なかでも「年に1～4日」は平成15年度から9%、平成18年度からは3%上昇し、ふれあい日数の短期化が継続しているといえる。一方で、「年に100日以上」とする比率は平成18年度からやや上昇しており(9 12%)、2極化の兆しも見られる。

性別では、大きな差はみられないが、女性の方が男性に比較して「年に1～4日」の比率がやや高く(男性18%、女性22%)、年に5日以上40日未満の項目でいずれもやや低い。

年齢別では、年に20日未満の比率は40代で70%と最も高く、次いで20代(68%)、30代(65%)となっている。一方60代、70代以上で低くなっている(51%、49%)。

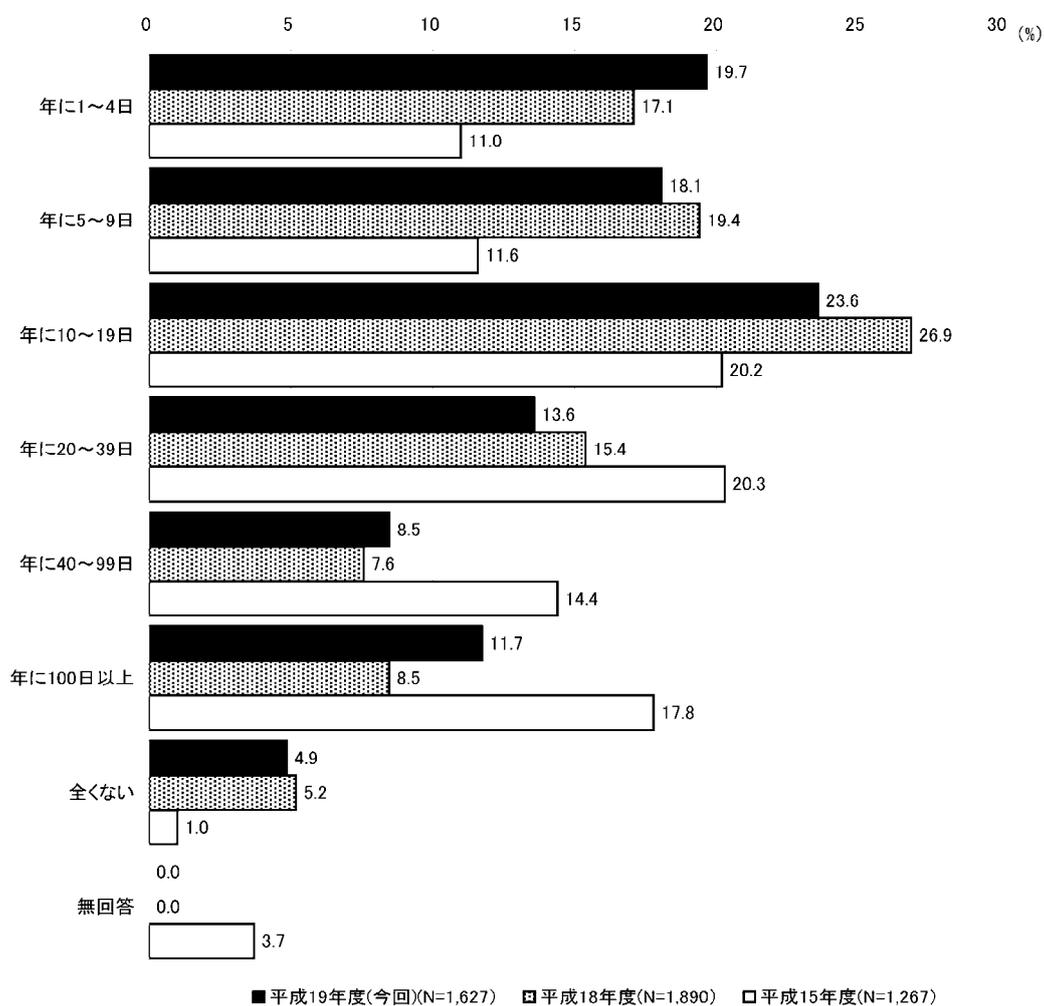
また、「年に100日以上」の比率は30代で特に低く(6%)、60代、70代以上では高くなっている(17%、15%)。

職業別では、日常的に自然と接している農林漁業が自然とのふれあい日数が高い(「年に100日以上」が63%)。これを除くと、会社員、学生、パート・アルバイトで20日未満の比率が高い(71%、68%、68%)のに対し、商工販売サービス業、無職、その他で「年に100日以上」の比率が高い(16%、17%、18%)。

地域別では、北陸地方で年に20日未満の比率が75%と高く、北海道・東北地方、中国・四国地方でいずれも57%と低くなっている。逆に「年に100日以上」は、北海道・東北地方、中国・四国地方、九州地方で高く(15%、19%、16%)、北陸地方で低くなっている(7%)。

都市規模別では、規模が大きくなるほど年に20日未満の比率が高く、政令指定都市で67%、町村で56%となっている。逆に「年に100日以上」は政令指定都市で5%、町村で21%となっている。

図表 4-25 自然とふれあって過ごしている日数(全体、時系列)



図表 4-26 自然とふれあって過ごしている日数(性別、年齢別、職業別)

単位：%

	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,627	795	832	274	332	266	308	306	141	16	95	28	35	460	73	18	62	211	387	182	60
年に1~4日	19.7	17.5	21.8	21.5	22.0	25.2	23.4	10.8	11.3	6.3	24.2	7.1	11.4	25.9	13.7	11.1	12.9	25.6	16.8	9.9	23.3
年に5~9日	18.1	18.7	17.4	22.3	18.7	19.2	15.6	17.3	13.5	0.0	21.1	28.6	17.1	19.1	13.7	33.3	24.2	22.7	15.8	14.8	8.3
年に10~19日	23.6	26.4	20.9	24.1	24.7	25.2	21.1	22.9	24.1	12.5	13.7	21.4	34.3	25.7	34.2	11.1	30.6	19.4	22.5	22.5	30.0
年に20~39日	13.6	14.0	13.2	9.5	14.5	10.9	14.6	15.0	19.1	0.0	15.8	17.9	20.0	11.7	15.1	16.7	9.7	9.5	16.5	15.9	11.7
年に40~99日	8.5	7.9	9.0	5.8	9.9	5.3	7.1	11.8	12.1	12.5	7.4	3.6	11.4	7.0	12.3	16.7	0.0	7.6	10.3	11.0	6.7
年に100日以上	11.7	10.9	12.5	11.3	6.0	10.5	12.7	17.0	14.9	62.5	15.8	14.3	0.0	5.9	11.0	11.1	12.9	12.3	12.7	17.0	18.3
全くない	4.9	4.5	5.2	5.5	4.2	3.8	5.5	5.2	5.0	6.3	2.1	7.1	5.7	4.8	0.0	0.0	9.7	2.8	5.4	8.8	1.7

図表 4-27 自然とふれあって過ごしている日数(地域別、都市規模別)

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村
調査数(N)	1,627	219	489	86	237	265	143	188	317	809	350	151
年に1~4日	19.7	25.6	15.3	25.6	16.9	23.4	18.2	20.7	21.5	20.3	15.7	21.9
年に5~9日	18.1	11.4	21.3	23.3	19.4	17.7	14.7	16.5	19.6	18.5	16.3	16.6
年に10~19日	23.6	20.1	26.2	25.6	24.9	20.0	24.5	22.9	26.2	23.5	24.3	17.2
年に20~39日	13.6	13.7	15.1	8.1	13.9	14.0	9.1	14.4	12.0	14.3	14.0	11.9
年に40~99日	8.5	10.5	7.0	5.8	9.7	8.3	9.8	9.0	8.2	8.3	8.6	9.9
年に100日以上	11.7	15.1	9.0	7.0	10.5	9.8	18.9	16.0	5.4	9.5	18.6	21.2
全くない	4.9	3.7	6.1	4.7	4.6	6.8	4.9	0.5	7.3	5.6	2.6	1.3

4-6-3 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと

自然とのふれあいを増やすために必要なことについては、「自然環境の保全・育成」「身近に整備された自然とふれあうための場所」が5割を超え上位を占めている。

自然とのふれあいを増やすために必要なこととしては、全体では「自然とふれあうための場所」が最も高く(59%)、次いで「自然環境の保全・育成」(55%)、「自然に関する情報の提供」(41%)の順であった。

性別では、全体に大きな差はみられなかったが、女性の方が男性に比較して「自然に関する情報の提供」(男性 40%、女性 43%)、「自然とふれあうための行事や催し物」(男性 31%、女性 34%)、「ツアーやパック旅行」を上げる比率が高かった(男性 20%、女性 27%)。

年齢別には、全体に大きな差はみられないが全体の比率より 5%以上差のある項目は以下のとおりである。

5%以上高い項目

- 「行事や催し物」 30代(38%)、70代以上(40%)
- 「ツアーやパック旅行」 70代以上(31%)
- 「ボランティアの機会」 70代以上(21%)

5%以上低い項目

- 「情報の提供」 20代(34%)
- 「行事や催し物」 50代(23%)
- 「ツアーやパック旅行」 40代(18%)

職業別では、全体の比率より 10%以上差のある項目は以下のとおりである。

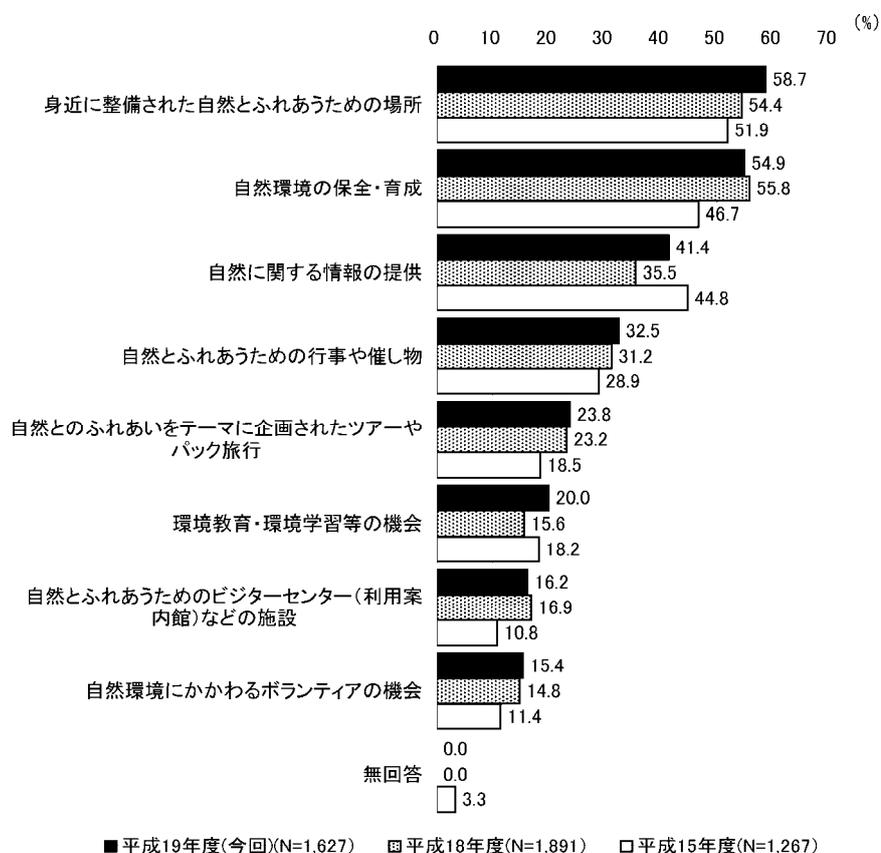
10%以上高い項目

- 「ふれあうための場所」 その他(72%)
- 「自然環境の保全・育成」 農林漁業(69%)、自由業(71%)、団体職員(78%)
- 「情報の提供」 団体職員(56%)、その他(52%)
- 「行事や催し物」 団体職員(50%)
- 「環境教育・環境学習等の機会」 学生(32%)
- 「ボランティアの機会」 自由業(29%)

10%以上低い項目

- 「自然環境の保全・育成」 会社役員・会社経営(40%)
- 「ツアーやパック旅行」 農林漁業(13%)

図表 4-28 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと(全体、時系列:複数回答)



図表 4-29 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと(性別、年齢別、職業別:複数回答)

	全体	性別		年齢別							職業別												
		男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他		
調査数(N)	1,627	795	832	274	332	266	308	306	141	16	95	28	35	460	73	18	62	211	387	182	60		
身近に整備された自然とふれあうための場所	58.7	60.1	57.3	63.5	61.7	56.4	54.5	55.9	61.7	50.0	50.5	50.0	54.3	60.2	54.8	50.0	62.9	56.4	59.4	59.9	71.7		
自然環境の保全・育成	54.9	55.8	54.1	57.7	52.7	55.6	54.5	57.2	49.6	68.8	54.7	71.4	40.0	51.3	61.6	77.8	54.8	55.0	53.5	61.5	55.0		
自然に関する情報の提供	41.4	39.5	43.3	34.3	43.1	39.8	42.5	44.1	46.1	37.5	41.1	50.0	45.7	34.3	37.0	55.6	37.1	44.1	44.4	46.7	51.7		
自然とふれあうための行事や催し物	32.5	30.8	34.0	35.8	38.3	30.5	23.4	30.7	39.7	31.3	26.3	32.1	28.6	31.1	28.8	50.0	32.3	32.7	34.9	34.1	33.3		
自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやバック旅行	23.8	20.4	27.0	25.9	21.7	18.0	21.8	28.1	30.5	12.5	23.2	28.6	22.9	17.8	20.5	33.3	27.4	25.1	28.4	27.5	23.3		
環境教育・環境学習等の機会	20.0	20.4	19.6	21.9	20.5	19.5	17.2	20.6	20.6	18.8	22.1	21.4	17.1	16.3	21.9	22.2	32.3	21.8	19.9	21.4	20.0		
自然とふれあうためのビジターセンター(利用案内館)などの施設	16.2	16.0	16.5	16.1	19.3	18.4	13.3	14.4	15.6	12.5	16.8	14.3	20.0	16.1	15.1	22.2	12.9	11.4	19.1	15.9	18.3		
自然環境にかかわるボランティアの機会	15.4	15.3	15.4	12.0	14.5	11.3	16.9	19.0	20.6	25.0	10.5	28.6	20.0	10.2	9.6	16.7	21.0	17.1	16.5	20.3	23.3		

単位: %

地域別では、大きな地域差はみられないが、全体の比率より5%以上差のある項目として、「ふれあうための場所」は北海道・東北地方でやや低く(52%)、「行事や催し物」は九州地方でやや高い(40%)。

都市規模別では、「ふれあうための場所」について政令指定都市でやや高く(64%)、町村でやや低い(49%)。それ以外の項目について規模別の差はほとんどみられない。

図表 4-30 自然とのふれあいを増やすのに必要なこと(地域別、都市規模別:複数回答)

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村
調査数(N)	1,627	219	489	86	237	265	143	188	317	809	350	151
身近に整備された自然とふれあうための場所	58.7	51.6	59.5	57.0	60.3	61.1	61.5	58.0	63.7	57.2	61.7	49.0
自然環境の保全・育成	54.9	53.0	58.1	53.5	51.5	53.2	51.7	59.0	57.4	54.0	53.7	57.6
自然に関する情報の提供	41.4	38.8	41.9	38.4	44.3	40.8	39.2	43.6	44.8	38.6	44.0	43.7
自然とふれあうための行事や催し物	32.5	31.1	27.8	33.7	32.1	34.7	35.7	40.4	33.8	31.5	35.4	27.8
自然とのふれあいをテーマに企画されたツアーやバック旅行	23.8	19.6	22.3	20.9	28.3	24.9	25.9	25.0	24.9	22.4	26.9	21.9
環境教育・環境学習等の機会	20.0	18.7	20.2	20.9	18.1	17.7	21.7	24.5	18.0	20.3	21.1	19.9
自然とふれあうためのビジターセンター(利用案内館)などの施設	16.2	14.6	15.3	17.4	14.3	18.9	17.5	17.6	17.0	16.1	18.0	11.3
自然環境にかかわるボランティアの機会	15.4	16.0	14.5	12.8	16.0	13.6	16.1	19.1	12.9	17.2	12.9	16.6

4-6-4 過去1年間の自然関連の旅行経験

過去1年間の自然関連旅行を経験している人の比率は6割である。その内訳は、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」が約3割と最も多い。この比率は60代、会社経営・会社役員、公務員、団体職員で高くなっている。

全体では、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」(31%)、「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」(28%)が高い比率を占めている。過去1年間で何らかの自然関連の旅行経験がある人(「旅行はどれもしていない」を除いた比率)は61%ある。

前回調査と比較すると、全体では「山登りなどアウトドア活動の旅行」はやや低下している(22%)。

性別では、全体にはあまり差が見られなかったが、「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」については女性の比率が男性に比較してやや高い(男性28%、女性34%)。

年齢別では以下のような特徴がみられる。

- ・「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」
60代、70代以上で比率が高く(ともに39%)、30代、40代でやや低くなっている(23%、18%)。
- ・「その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」
60代、70代以上で比率が高く(22%、32%)、30代、40代でやや低くなっている(10%、8%)。
- ・「野外生活を体験する旅行」
20代、30代でやや高く(ともに18%)、70代では低くなっている(1%)。
- ・「旅行はどれもしていない」
40代で高く(45%)、60代では最も低くなっている(33%)。

職業別では、全体の比率に対し10%以上の差がみられる項目は以下の通りである。

10%以上高い項目

- ・「地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」 無職(26%)、その他(30%)
- ・「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」 団体職員(44%)
- ・「アウトドアの旅行」 公務員(29%)
- ・「野外生活を体験する旅行」 学生(24%)
- ・「旅行はどれもしていない」 農林漁業(69%)

10%以上低い項目

- ・「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」 農林漁業(6%)
- ・「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」 農林漁業(6%)、団体職員(17%)、学生(15%)
- ・「アウトドアの旅行」 農林漁業(6%)
- ・「地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」 農林漁業(0%)
- ・「旅行はどれもしていない」 会社役員・会社経営(23%)

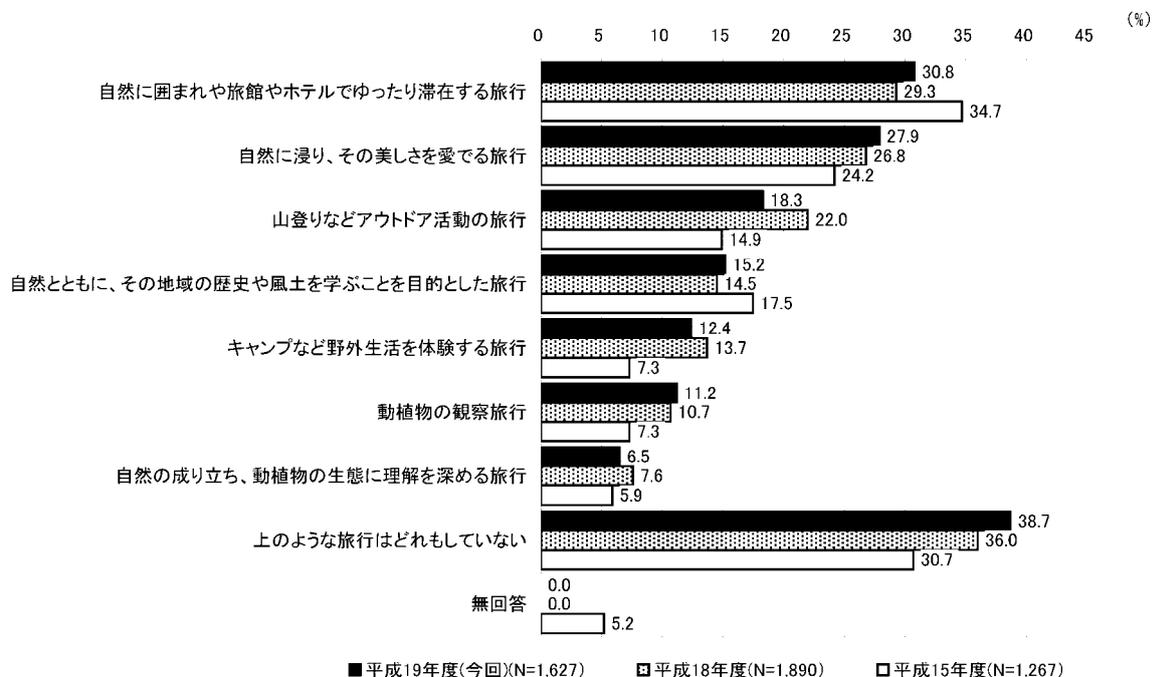
地域別では、北陸地方において「旅行はどれもしていない」の比率が52%と高い。その他の項目については他の地域と比較して高い比率を示す項目はみられないが、5%以上低い項目は以下の通りである。

5%以上低い項目

- ・「自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行」
北海道・東北地方(26%)、中国・四国地方(22%)
- ・「自然に浸り、その美しさを愛でる旅行」 中国・四国地方(22%)
- ・「地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行」 北陸地方(9%)

都市規模別では、町村は「旅行はどれもしていない」が高く(49%)、全体に旅行先の比率が低い。それ以外の都市では、大きな差はみられない。

図表 4-31 過去1年間の自然関連の旅行経験(全体、時系列:複数回答)



図表 4-32 過去1年間の自然関連の旅行経験(性別、年齢別、職業別:複数回答)

	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	1,627	795	832	274	332	266	308	306	141	16	95	28	35	460	73	18	62	211	387	182	60
自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行	30.8	27.9	33.5	25.2	30.7	26.7	30.8	37.9	34.0	6.3	26.3	28.6	37.1	28.9	34.2	44.4	27.4	29.9	34.1	32.4	28.3
自然に浸り、その美しさを愛でる旅行	27.9	26.2	29.6	25.9	22.9	17.7	27.6	39.2	39.0	6.3	20.0	35.7	22.9	26.3	20.5	16.7	14.5	27.5	33.9	33.0	31.7
山登りなどアウトドア活動の旅行	18.3	20.3	16.3	18.2	17.2	19.2	18.2	19.3	17.0	6.3	15.8	17.9	22.9	20.0	28.8	16.7	24.2	13.3	17.1	18.1	16.7
自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行	15.2	14.2	16.1	12.4	9.9	8.3	14.6	22.2	31.9	0.0	11.6	10.7	14.3	11.1	11.0	11.1	6.5	15.6	16.5	26.4	30.0
キャンプなど野外生活を体験する旅行	12.4	13.5	11.4	17.5	17.8	16.5	8.8	7.2	1.4	12.5	10.5	17.9	17.1	15.4	19.2	16.7	24.2	11.4	9.8	6.0	5.0
動植物の観察旅行	11.2	11.1	11.4	11.7	11.4	10.2	8.8	14.1	11.3	6.3	9.5	10.7	5.7	9.6	11.0	5.6	16.1	11.8	11.9	13.7	15.0
自然の成り立ち、動植物の生態に理解を深める旅行	6.5	6.9	6.0	4.7	7.8	4.5	5.2	7.2	11.3	0.0	3.2	10.7	2.9	7.0	4.1	5.6	4.8	6.6	5.7	8.8	11.7
上のような旅行はどれもしていない	38.7	38.6	38.7	38.7	40.1	44.7	38.3	33.3	36.2	68.8	45.3	46.4	22.9	37.8	34.2	38.9	40.3	38.4	38.2	37.9	41.7

図表 4-33 過去1年間の自然関連の旅行経験(地域別、都市規模別:複数回答)

	単位: %											
	全体	地域別							都市規模別			
北海道・東北		関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村	
調査数(N)	1,627	219	489	86	237	265	143	188	317	809	350	151
自然に囲まれた旅館やホテルでゆったり滞在する旅行	30.8	25.6	33.3	32.6	35.0	30.6	21.7	31.4	34.4	28.6	33.7	28.5
自然に浸り、その美しさを愛でる旅行	27.9	23.3	31.7	26.7	30.0	25.3	22.4	29.3	32.8	27.6	27.1	21.2
山登りなどアウトドア活動の旅行	18.3	16.4	21.1	18.6	16.5	18.1	15.4	17.6	14.8	20.0	19.7	12.6
自然とともに、その地域の歴史や風土を学ぶことを目的とした旅行	15.2	13.7	16.4	9.3	18.6	14.0	12.6	16.0	19.6	14.7	14.9	9.3
キャンプなど野外生活を体験する旅行	12.4	17.4	10.6	14.0	10.5	11.3	12.6	14.4	10.4	11.9	14.9	13.9
動植物の観察旅行	11.2	8.2	10.2	9.3	11.8	14.3	11.2	13.3	9.8	12.5	11.1	7.9
自然の成り立ち、動植物の生態に理解を深める旅行	6.5	4.6	7.6	2.3	8.9	5.7	5.6	6.4	5.0	7.4	6.9	3.3
上のような旅行はどれもしていない	38.7	38.8	34.6	43.0	36.3	39.2	51.7	39.4	38.5	37.9	36.0	49.0

4-6-5 自然関連の旅行日数

過去1年間に自然関連の旅行をした人の旅行日数は「3～4日」が3割程度で、5日未満が過半数を占めている。年齢別では60代、70代以上で10日以上の旅行をする人が多い。

全体では、「3～4日」が最も高く(30%)、次いで「1～2日」(25%)、「5～9日」(23%)の順となっており、5日未満の旅行が全体の55%を占めている。

性別では、ほとんど差はみられなかった。

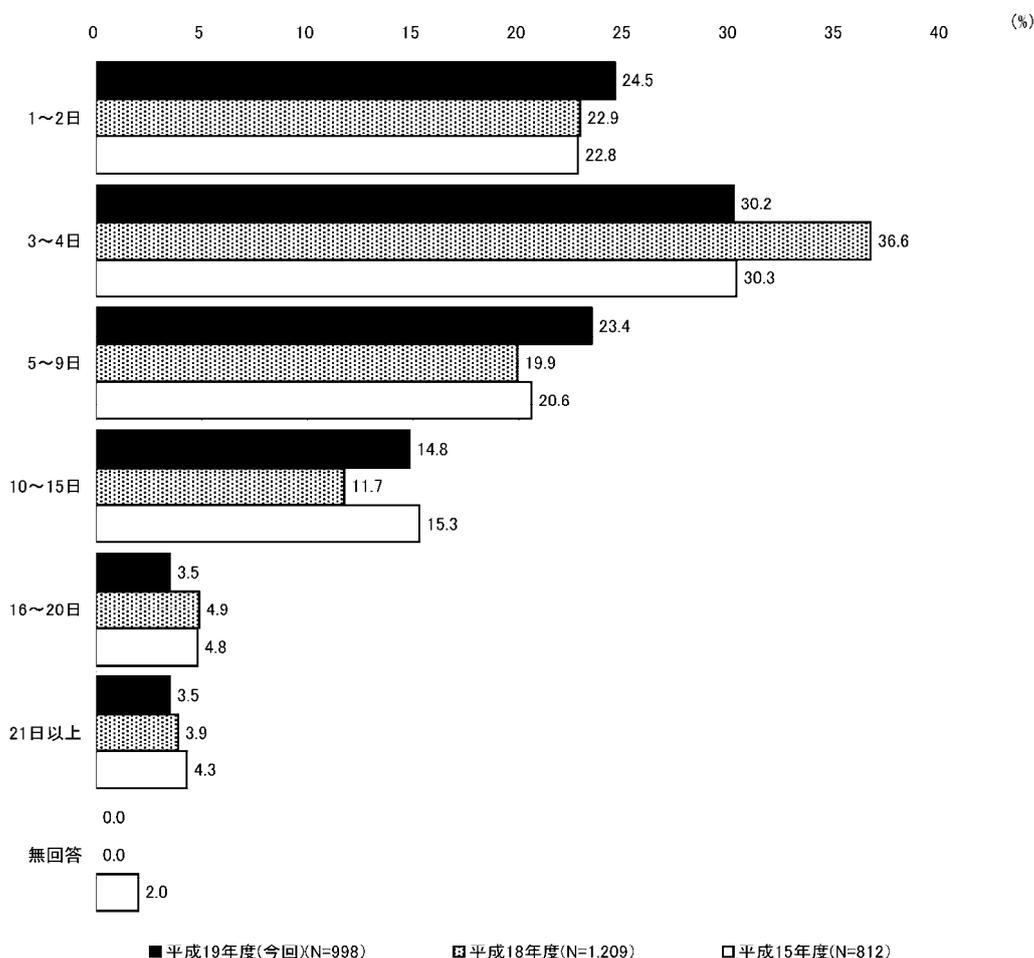
年齢別では、年齢が若いほど旅行日数は少なくなる傾向が見られ、20代では5日未満の比率は69%と高い割合を占め、10日以上は12%である。逆に60代、70代以上では、5日未満が低く(41%、43%)、10日以上は高くなっている(33%、38%)。

職業別では、5日未満の比率が学生、会社員、公務員で多く(65%、63%、63%)、10日以上の比率は農林漁業、団体職員が多い(40%、36%)。

地域別では、特に大きな差はみられないが、北陸地方は5日未満の比率が高く(65%)10日以上は低い(12%)のに対し、中部地方では5日以上は低く(49%)10日以上は他の地域より高い(23%)。

都市規模別では、規模が小さいほど5日未満の比率が高くなるが、10日以上の比率には大きな変化はない。

図表 4-34 自然関連の旅行日数(全体、時系列)



図表 4-35 自然関連の旅行日数(性別、年齢別、職業別)

単位：%

	性別		年齢別							職業別											
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他
調査数(N)	998	488	510	168	199	147	190	204	90	5	52	15	27	286	48	11	37	130	239	113	35
1～2日	24.5	24.6	24.5	34.5	28.6	23.1	22.6	17.6	18.9	40.0	21.2	6.7	22.2	27.3	20.8	9.1	35.1	30.8	21.8	18.6	28.6
3～4日	30.2	30.9	29.4	34.5	34.7	32.0	30.0	23.5	24.4	20.0	25.0	40.0	25.9	35.3	41.7	36.4	29.7	30.0	25.9	24.8	25.7
5～9日	23.4	24.2	22.7	19.0	21.1	26.5	26.8	26.0	18.9	0.0	30.8	26.7	25.9	21.0	29.2	18.2	21.6	21.5	24.7	27.4	14.3
10～15日	14.8	13.5	16.1	8.3	12.6	13.6	13.2	23.0	18.9	20.0	17.3	20.0	14.8	11.9	2.1	36.4	10.8	13.8	18.8	15.9	20.0
16日～20日	3.5	3.5	3.5	1.8	1.5	2.0	4.2	2.9	13.3	20.0	0.0	6.7	7.4	2.4	6.3	0.0	0.0	1.5	3.8	7.1	5.7
21日以上	3.5	3.3	3.7	1.8	1.5	2.7	3.2	6.9	5.6	0.0	5.8	0.0	3.7	2.1	0.0	0.0	2.7	2.3	5.0	6.2	5.7

図表 4-36 自然関連の旅行日数(地域別、都市規模別)

単位：%

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村
調査数(N)	998	134	320	49	151	161	69	114	195	502	224	77
1～2日	24.5	22.4	20.9	36.7	19.2	30.4	27.5	28.9	22.6	22.7	30.8	23.4
3～4日	30.2	32.8	31.6	28.6	29.8	24.2	34.8	29.8	28.2	31.7	26.3	36.4
5～9日	23.4	20.1	23.1	22.4	28.5	25.5	15.9	23.7	23.6	24.5	22.8	18.2
10～15日	14.8	16.4	14.7	8.2	16.6	13.7	15.9	14.9	15.9	14.9	13.8	14.3
16日～20日	3.5	3.7	5.0	0.0	2.0	3.7	4.3	1.8	5.1	3.0	2.7	5.2
21日以上	3.5	4.5	4.7	4.1	4.0	2.5	1.4	0.9	4.6	3.2	3.6	2.6

4-6-6 今後の自然関連の旅行の意向

今後の自然関連の旅行意向は依然強く、「今より多く行きたい」が56%を示し、前回調査と同程度の比率となっている。特に強い意向を示しているのは団体職員、会社役員・会社経営である。

全体では、今後の自然関連の旅行意向は「今より多く行きたい」が56%で、「今と同じ程度でいい」が42%、「今より少なくしたい」が3%である。

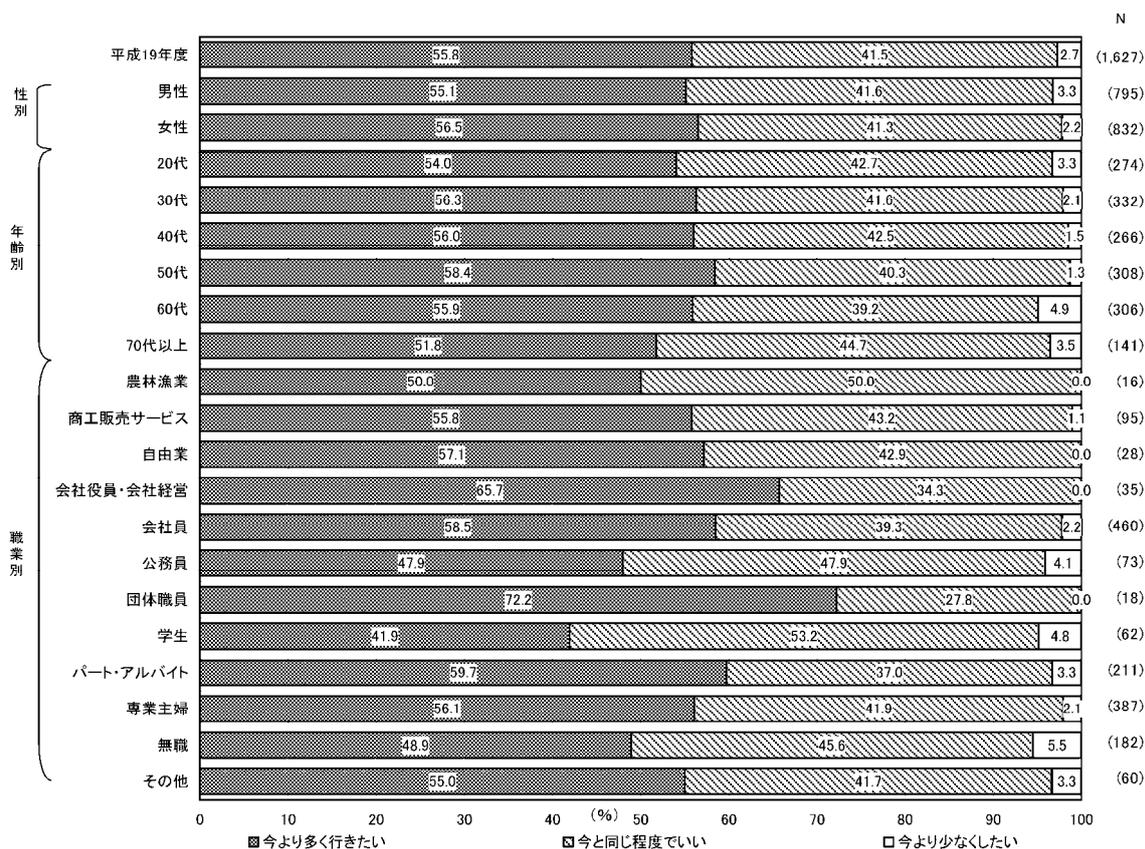
性別、年齢別では、大きな差はみられない。

職業別では、団体職員、会社役員・会社経営で「今より多く行きたい」が高く(72%、66%)、「今と同じ程度でいいと思う」は学生、農林漁業で多い(53%、50%)。

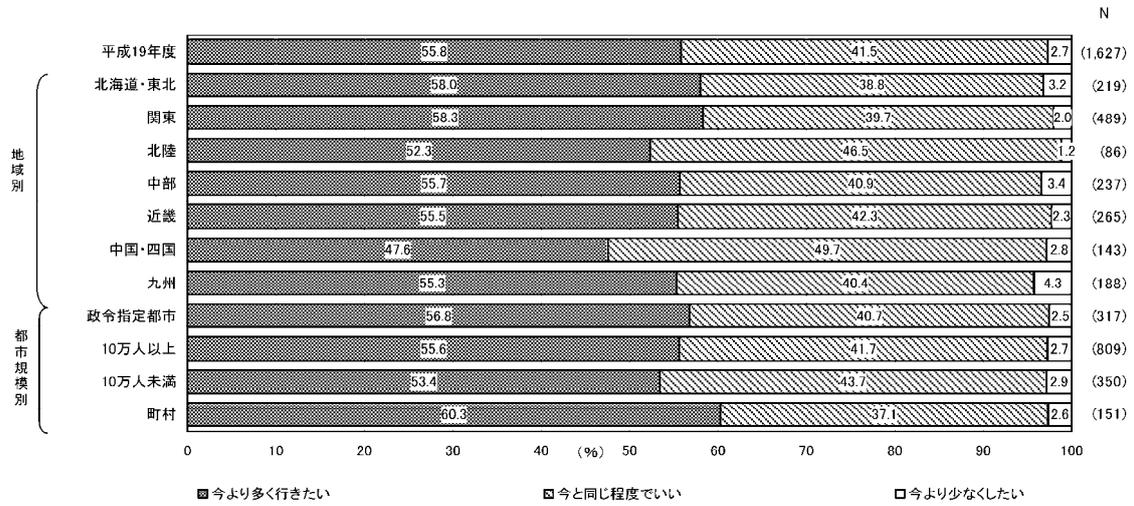
地域別では、「今と同じ程度でいいと思う」が北陸地方、中国・四国地方でやや高いが(47%、50%)、その他の地域ではほとんど差はみられない。

都市規模別では、「今より多く行きたい」が町村でやや多い(60%)ものの、全体に大きな差はみられない。

図表 4-37 今後の自然関連の旅行意向(性別、年齢別、職業別)



図表 4-38 今後の自然関連の旅行意向(地域別、都市規模別)



4-6-7 居住地域の環境資源について

居住地域にある観光資源として挙げられたものは、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(56%)、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(49%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(47%)が上位を占める。

現在の居住地域に他の地域から旅行などで人が訪れる場合、その人たちに見て欲しい、あるいは楽しんで欲しいと思うもの、つまり、居住者からみた観光資源は、全体では、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」が最も高く(56%)、次いで、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(49%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(47%)の順である。

前回調査と比較すると、「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」が低下し(57→49%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」が上昇して(41→47%)傾向が入れ替わっている。

性別では、全体に女性の方が男性より値が高いが、大きな差はみられなかった。

年齢別では、年齢が若いほど料理やイベントなどソフト的な資源をあげ、年齢が高いほど名所、施設などの土地、施設を上げる割合が高い。30代で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」、「祭り・イベント」を上げる比率がやや高く(58%、33%)、60代では「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」、「特産物、民芸品・工芸品などのショッピング」がやや高く(54%、21%)、70代以上は「動植物(園)・水族館」、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」、「芸能、美術品、工芸品」がやや高い(21%、60%、18%)。

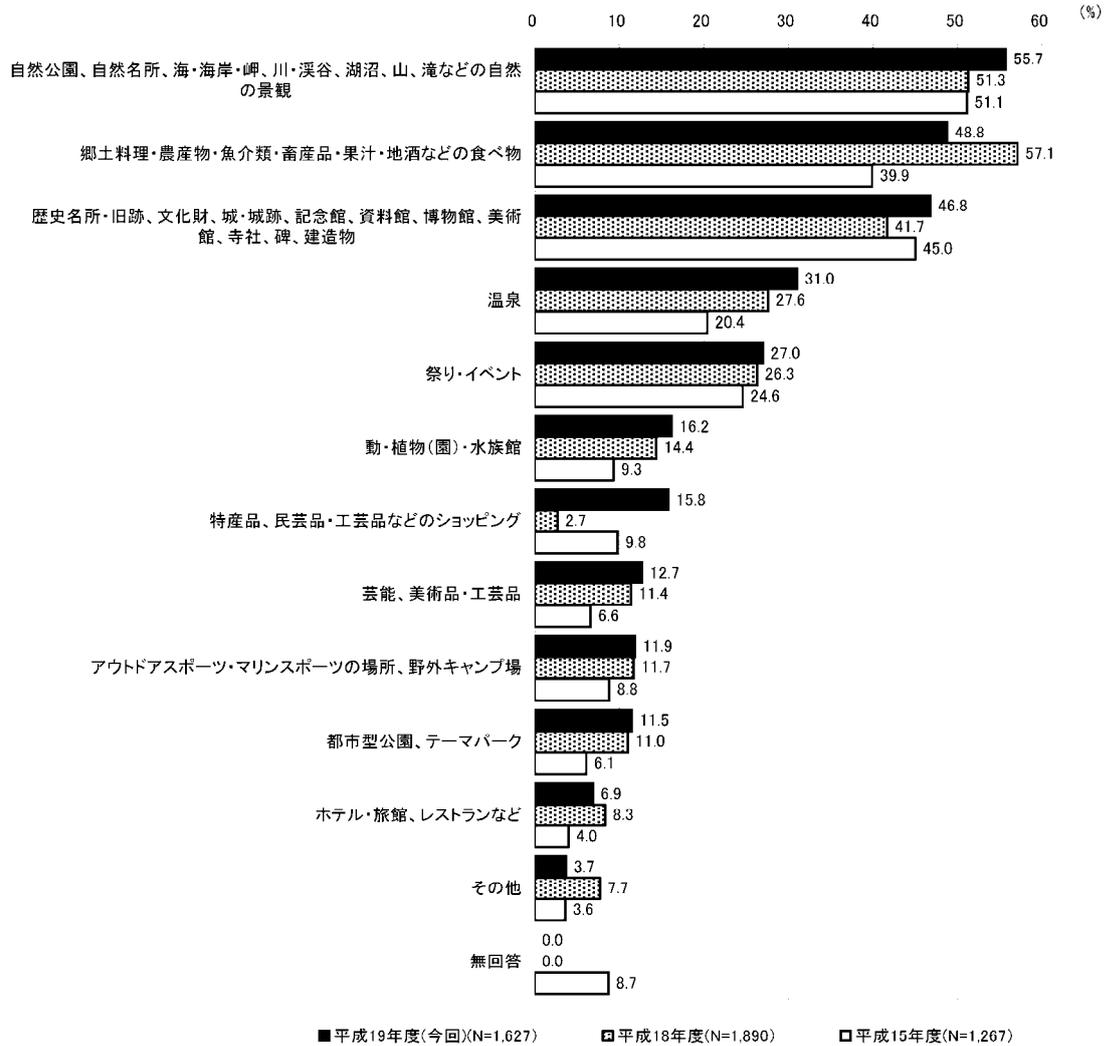
職業別では、全体の比率より10%以上の差がみられる項目は以下の通りである。

全体より10%以上高い項目

- 農林漁業
「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(63%)、「祭り・イベント」(38%)、「特産物、民芸品・工芸品などのショッピング」(44%)
- 自由業
「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(68%)、「動植物(園)、水族館」(29%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(75%)、「芸能、美術品、工芸品などのショッピング」(25%)
- 会社役員・会社経営
「アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場」(23%)
- 公務員
「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(63%)、「温泉」(41%)
- 団体職員
「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(67%)、「特産物、民芸品・工芸品などのショッピング」(28%)

この他、学生では「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」の比率が平均より低い(40%)反面、「アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場」については比率が平均より高く(18%)、より活動的な要素を資源としてみているものとうかがえる。

図表 4-39 居住地域の観光資源(全体、時系列:複数回答)



図表 4-40 居住地域の観光資源(性別、年齢別、職業別:複数回答)

	性別		年齢別							職業別												
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス業	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他	
調査数(N)	1,627	795	832	274	332	266	308	306	141	16	95	28	35	460	73	18	62	211	387	182	60	
自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観	55.7	53.3	58.1	48.2	53.6	59.8	56.5	59.8	57.4	56.3	60.0	67.9	54.3	50.9	60.3	66.7	40.3	54.5	58.1	59.9	65.0	
郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物	48.8	46.3	51.2	51.5	57.5	49.2	46.8	42.5	40.4	62.5	54.7	39.3	51.4	45.7	63.0	55.6	53.2	48.3	51.2	44.0	40.0	
歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物	46.8	44.8	48.7	39.1	38.9	45.1	50.6	53.9	59.6	31.3	50.5	75.0	51.4	40.7	47.9	44.4	46.8	47.9	48.1	50.0	53.3	
温泉	31.0	30.8	31.3	30.3	30.7	32.0	28.9	32.0	34.0	18.8	35.8	21.4	37.1	29.1	41.1	27.8	32.3	28.9	30.2	36.3	26.7	
祭り・イベント	27.0	24.3	29.7	29.6	33.4	28.2	24.4	22.2	21.3	37.5	32.6	14.3	25.7	27.6	32.9	27.8	25.8	27.5	29.2	14.8	33.3	
動・植物(園)・水族館	16.2	14.2	18.1	20.4	16.6	15.4	12.3	14.4	21.3	18.8	12.6	28.6	14.3	14.6	13.7	22.2	14.5	13.7	19.6	17.6	15.0	
特産品、民芸品・工芸品などのショッピング	15.8	13.2	18.3	15.0	14.8	12.8	14.0	21.2	17.7	43.8	17.9	25.0	17.1	12.6	17.8	27.8	11.3	16.1	16.8	13.7	21.7	
芸能、美術品・工芸品	12.7	10.4	14.8	15.0	13.3	9.4	9.4	13.4	18.4	18.8	15.8	35.7	14.3	12.2	11.0	16.7	12.9	8.1	13.2	9.9	20.0	
アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場	11.9	12.7	11.1	16.4	11.4	12.8	11.0	9.5	9.2	6.3	11.6	7.1	22.9	12.6	16.4	5.6	17.7	5.7	11.9	9.9	21.7	
都市型公園、テーマパーク	11.5	11.2	11.8	14.6	15.1	11.7	8.8	6.9	12.8	6.3	6.3	7.1	8.6	14.3	8.2	11.1	9.7	9.5	13.4	8.8	11.7	
ホテル・旅館、レストランなど	6.9	6.5	7.3	6.9	6.9	6.0	7.1	6.9	8.5	0.0	10.5	0.0	0.0	7.4	2.7	16.7	3.2	6.6	8.5	4.9	10.0	
その他	3.7	3.3	4.1	2.6	3.3	3.0	4.2	5.6	2.8	6.3	5.3	7.1	11.4	2.4	0.0	5.6	1.6	4.3	4.1	3.3	6.7	

地域別では、関東地方、近畿地方といった大都市圏域を除く地域で「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」「温泉」「祭り・イベント」を資源として上げる比率が高く、関東地方、近畿地方では「都市型公園、テーマパーク」の比率が高い(15%、19%)。このほか、北陸地方では「芸能、美術品・工芸品」(33%)、「特産物、民芸品・工芸品などのショッピング」(33%)の比率が高い。

都市規模別では、政令指定都市は「動・植物(園)、水族館」(27%)、「都市型公園、テーマパーク」(22%)、「歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物」(53%)、といった観光施設の比率が高く、10万人未満の市、町村では「郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物」(55%、58%)、「自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観」(63%、62%)が高い。

図表 4-41 居住地域の観光資源(地域別、都市規模別:複数回答)

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上の市	10万人未満の市	町村
調査数(N)	1,627	219	489	86	237	265	143	188	317	809	350	151
自然公園、自然名所、海・海岸・岬、川・溪谷、湖沼、山、滝などの自然の景観	55.7	56.6	53.0	62.8	50.2	44.9	68.5	71.3	44.5	56.0	62.6	62.3
郷土料理・農産物・魚介類・畜産品・果汁・地酒などの食べ物	48.8	63.9	33.9	68.6	54.0	30.9	60.8	70.2	44.2	46.2	54.9	58.3
歴史名所・旧跡、文化財、城・城跡、記念館、資料館、博物館、美術館、寺社、碑、建造物	46.8	32.0	47.4	52.3	53.6	48.3	48.3	47.9	53.3	48.3	42.3	35.1
温泉	31.0	47.0	20.0	64.0	29.5	22.6	25.2	44.1	26.5	31.5	32.3	35.1
祭り・イベント	27.0	34.2	20.7	40.7	24.9	19.6	42.7	30.3	28.1	26.5	28.3	25.2
動・植物(園)・水族館	16.2	10.5	15.3	18.6	19.4	16.6	11.9	22.9	26.8	15.1	12.6	8.6
特産品、民芸品・工芸品などのショッピング	15.8	13.7	11.7	32.6	18.6	9.4	21.7	22.3	12.9	16.1	18.9	13.2
芸能、美術品・工芸品	12.7	8.2	10.2	32.6	16.5	6.0	15.4	17.6	12.6	14.0	12.6	6.0
アウトドアスポーツ・マリンスポーツの場所、野外キャンプ場	11.9	15.5	9.4	12.8	11.0	11.3	18.2	10.6	10.1	11.5	13.4	13.9
都市型公園、テーマパーク	11.5	3.7	14.5	9.3	10.5	18.9	6.3	8.5	22.1	10.6	7.4	3.3
ホテル・旅館、レストランなど	6.9	6.8	5.7	16.3	7.2	5.3	5.6	9.0	10.7	5.9	6.9	4.6
その他	3.7	3.2	4.7	0.0	3.0	6.8	1.4	1.6	4.1	3.3	4.3	3.3